

平成26年第4回糸魚川市議会定例会会議録 第2号

平成26年12月5日(金曜日)

議事日程第2号

平成26年12月5日(金曜日)

〈午前10時00分 開議〉

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

〈応招議員〉 19名

〈出席議員〉 19名

1番	笠原幸江君	2番	斉木勇君
3番	渡辺重雄君	4番	吉川慶一君
5番	樋口英一君	6番	保坂悟君
7番	田中立一君	8番	古川昇君
9番	伊藤文博君	10番	中村実君
11番	大滝豊君	12番	高澤公君
13番	田原実君	15番	吉岡静夫君
16番	新保峰孝君	17番	倉又稔君
18番	松尾徹郎君	19番	五十嵐健一郎君
20番	古畑浩一君		

〈欠席議員〉 0名

〈説明のため出席した者の職氏名〉

市長 米田 徹君 副市長 織田 義夫君

総務部長	金子裕彦君	市民部長	吉岡正史君
産業部長	加藤政栄君	総務課長	田原秀夫君
企画財政課長	斉藤隆一君	能生事務所長	原郁夫君
青海事務所長	大瀬信明君	市民課長	岩崎良之君
環境生活課長	渡辺勇君	福祉事務所長	加藤美也子君
健康増進課長	山本将世君	交流観光課長	藤田年明君
商工農林水産課長	斉藤孝君	建設課長	串橋秀樹君
都市整備課長	金子晴彦君	会計管理者 会計課長兼務	横田靖彦君
ガス水道局長	小林忠君	消防長	大滝正史君
教育長	竹田正光君	教育次長 教育委員会子ども課長兼務	伊奈晃君
教育委員会子ども教育課長	渡辺寿敏君	教育委員会生涯学習課長 中央公民館長兼務 市民図書館長兼務 勤労青少年ホーム館長兼務	竹之内豊君
教育委員会文化振興課長 歴史民俗資料館長兼務 長者ヶ原考古館長兼務	佐々木繁雄君	監査委員事務局長	池田正吾君
農業委員会事務局長	猪又康久君		

十 〈事務局出席職員〉 十

局長	小林武夫君	主査	室橋淳次君
主査	石崎健一君		

〈午前10時00分 開議〉

○議長（樋口英一君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員はありません。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第1．会議録署名議員の指名

○議長（樋口英一君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、10番、中村実議員、18番、松尾徹郎議員を指名いたします。

日程第2. 一般質問

○議長（樋口英一君）

日程第2、一般質問を行います。

発言通告者は13人ありますが、議事の都合により本日5人、8日5人、9日3人を予定しております。

一般質問の質問時間は、答弁を除き1人30分であります。所定の時間内に終わるよう、質問・答弁とも簡潔に要領よくお願いいたします。

また、質問は通告の範囲内にとどめるよう、ご協力をお願いをいたします。

通告順に発言を許します。

田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

○13番（田原 実君）

おはようございます。

糸魚川21クラブの田原 実です。

去る11月22日、夜間に発生した長野県北部を震源地とする神城断層地震では、近隣の小谷村、白馬村で建物倒壊などの被害がありました。私は今回の質問で、地震災害対策についても伺いますが、このたびの災害に遭われた皆様、小谷村、白馬村の皆様に、この場をお借りしてお見舞いを申し上げます。

では、事前に提出しました発言通告書に基づき、以下、質問をいたします。

1、長野県神城断層地震と糸魚川市の対応について。

- (1) 長野県神城断層地震発生のメカニズムと糸魚川の地理、地質との関連をどう分析しているか伺います。
- (2) 長野県白馬村の被害状況、建物倒壊は、糸魚川市内の中山間地域での災害を想像するに十分なものです。近隣の状況から何を学んだか、その対策をどうするか伺います。
- (3) 空き家での被害が各所で確認されているが、その対策はいかがか伺います。
- (4) 被害状況の情報収集、周知における各地区との連携はいかがか伺います。
- (5) 重要な文化財「谷村美術館」の美術品の被害状況とその対応について伺います。

2、子どもの医療や職場の医療への対応と医療の情報共有について。

- (1) 糸魚川市の医療の情報提供について伺います。
- (2) 夜間の救急医療、特に子どもの急病のための医療情報について伺います。
- (3) 子宮頸がん予防ワクチンの副作用が心配されています。当市の状況について伺います。
- (4) 職場のストレスを原因とする病気などへの対応について伺います。
- (5) 若年性アルツハイマーなどへの対応について伺います。
- (6) 糸魚川総合病院の患者会がなくなり、コミュニケーションが希薄になったという市民の声

があるが、慢性的な医師不足や看護師不足に悩む病院と、診療科不足などに悩む利用者との間をとりもつために行政は何をすべきか伺います。

(7) 市民の生の意見を聞く医療フォーラムの役割が重要と思いますが、糸魚川市の取り組みはいかがですか伺います。

3、新幹線開業への対応（2） えちごトキめき鉄道の活用について。

(1) 新幹線とえちごトキめき鉄道の連携について、ダイヤ編成、連絡割引などについて伺います。

(2) 「トキてつサポーターズクラブ」と沿線都市の参加状況について伺います。

(3) 新駅「押上駅」設置について伺います。

(4) えちごトキめき鉄道日本海ひすいラインの観光活用について、学習と教育活用について伺います。

(5) イベント列車の市民利用に対する糸魚川市からの支援について伺います。

(6) 新造車両のエクステリアデザインを担当した長岡造形大学とのコラボレーションで、乗ってみたい列車、降りてみたい駅舎、めぐりたくなる駅前となるように、駅舎や駅周辺のリフォームやイメージアップを一体的に進めて、魅力向上を図ることについて伺います。

(7) 北陸本線の長い歴史を引き継ぐえちごトキめき鉄道を未来への文化遺産として考えたとき、明治44年に建設された木造の市振駅は、磨けば光る地域資源となりうると考えます。そのためには市振駅および駅周辺施設を登録文化財に登録し、親不知ジオパークの中で活用を図るべきと考えますが、いかがですか。

以上、1回目の質問です。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

田原議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、糸魚川・静岡構造線を構成する神城断層が動いて発生した逆断層型の地震であり、地質等との関係まではわかっておりません。

2点目につきましては、フォッサマグナの地域として建物の耐震化等とともに、地震への心構えと共助の重要性を再確認いたしましたところであります。

3点目につきましては、家屋等は所有者みずからの責任で管理をお願いしているところであり、危険な空き家が確認された場合には、空き家等の適正管理に関する条例に基づき対応してまいります。

4点目につきましては、警戒本部立ち上げ後、パトロールの実施と並行いたしまして、遠隔地については区長さんへの電話連絡により情報収集をいたしてまいりました。被害のなかった地区からも自主的にその旨の報告がされるなど、初期の情報収集における連携はできていたと受けとめております。

5点目につきましては、仏像2体が倒れ一部損傷いたしました。現在、修復に向けて関係者と

協議を進めております。

なお、11月23日から休館いたしておりましたが、12月3日から再開をいたしております。

2番目の1点目につきましては、市内医療機関等の情報を広報紙やホームページなどで周知をいたしております。

2点目につきましては、県の小児救急医療電話相談や日本小児科学会のこども救急ホームページを紹介するとともに、子育てお役立ちブックを配布し、周知を図っております。

3点目につきましては、2件の報告と相談がありました。

4点目につきましては、地域振興局と合同でハンドブックを作成し、市内事業者へ配布するとともに、健康相談会などで個別に対応いたしております。

5点目につきましては、介護保険制度による支援や介護家族への集い、さらには個別の相談などで対応いたしております。

6点目につきましては、ご意見直通便や行政懇談会などで市民の意見を把握し、市内医療機関と情報交換を実施することで、行政として地域医療体制の向上に努めているところであります。

7点目につきましては、県立看護大学と協定を結び、健康医療講演会を開催しており、講演会や研修会を通じて市民の声の把握に努めております。

3番目の1点目につきましては、朝は在来線から新幹線へ、夕方以降は新幹線から在来線への乗りかえを優先し、利便性が高くなるよう要望しております。

2点目につきましては、10月28日現在、入会者891名のうち糸魚川市からは236名でありました。

3点目につきましては、今後、市としての調査を実施する予定であります。

4点目につきましては、魅力ある観光資源の1つと捉え、北アルプス日本海広域観光連携会議など地域住民や周辺市町村とさらに連携を深めてまいります。

また、学校教育では、身近な交通として社会科で学習をいたしております。

5点目につきましては、現時点ではイベント列車の運行概要は定まっております。

6点目につきましては、今後、駅舎や駅周辺整備について、えちごトキめき鉄道と具体的に協議をしてまいります。

7点目につきましては、登録文化財の登録に関して調査研究してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

2回目の質問に入ります。

地震についてであります。今後の地震発生ということについては、どのようにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えいたします。

今後の地震の発生ですけれども、当地域は糸魚川・静岡構造線のところにあるわけでございます。また、新潟神戸歪集中帯というような地域に含まれているということでございます。そういうことでございますので、今後も地震が発生する可能性はあるというふうに認識しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

すぐ隣の小谷村、白馬村の被害状況は皆さんご存じだと思いますけれども、この状況を調査に行きましたか、また、これから調査に行く予定はあるか、その点、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

防災部局としては、直接は出向しておりませんが、県の情報をいただく中、それから緊急消防援助隊として現地へ入って確認等をしております。そのほか副市長が出向いて、確認等を実施してきたところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

やはり現地に行って、見て、聞いて、そして調査、分析ということが大事だと思います。

さて、それを市民にどのようにフィードバックしていきますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

今回のこの事案を受けて、非常に近いところで発生したということで、皆さん非常に驚いたということでございます。こういうことにつきまして今までも実施しております出前講座、それから地区の訪問懇談会等々、それから防災リーダー研修などなどで市民周知を図ってまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

ここで参考に、小谷村の方からいただいたメールをご披露したいと思います。

地震は突然訪れて、財産を一瞬のうちに奪っていきました。特に、私の住んでいる中谷地域が、村内でも甚大な被害を受けました。全壊を含む危険家屋が25棟、要注意家屋が35棟、中谷は全戸数100棟なので6割が被害と。地震発生から、自宅の横にある避難所で被災者の対応に12日間携わっておりました。その経験からわかったことがあります。

1、避難所を意識した建物でないため不便を感じました。断水により、水洗トイレが使えず仮設トイレを設置、今回は道路が通れたので給水車が来ましたが、でも、水洗は使えません。施設に近い高いところに高架水槽があれば、給水車で入れてもらえれば水洗の利用は可能。公共下水よりか、施設だけの合併浄化槽のほうが壊れても簡単に直せます。

2、避難生活も4日目になると不平不満が発生し、村の防災計画にはありませんが、急遽、避難所運営委員会を設立しルールづくりをしました。施設内での飲酒も可能としました。

3、安否確認が一番重要なので、昨年从中谷地域では防災避難訓練をしていましたので、スムーズに情報収集ができました。

4、フリーのWi-Fiが村内各避難所で使えたので情報収集に便利でした。停電でも施設内で使えるだけの大き目の発電機を避難所それぞれに設置済みで、直接、施設に入れられるよう配線を済ませてあります。

5、炊事班長を決めて、避難者等の地域の方々が当番を決めて調理をしていただきました。配給弁当は冷たく、おいしくないために、朝食と夕食は自炊生活をしました。中でも朝食は、バイキング方式で結構喜ばれました。

今後、離村する方がふえ、地域のコミュニティー機能がなくなっていくようで心配していますということでもあります。こういった近隣の例をいま一度、私たちも情報として持って、そして市民とともに共有をしていくために取り組みをお願いしたいと思います。

では、続けて質問いたします。

空き家での被害ということですが、来海沢地区のように市街地に住んでいて、もともと住んでいた家を、その様子を見に行ける場合は状況を確認できるが、そうでない場合は、誰がどう状況を確認するかということなんですけども、この点はいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

○環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

基本的には、そういう状況になった場合に、地区の区長さんなりに状況を確認していただいて、空き家で市外におられるという方の情報が入ってくれば私らのほうで、一応、その情報について所有者の方にお伝えいたすというふうにしていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

前回の一般質問でも話をしたんですけども、市街地の空き家で屋根瓦が通学路に落下しそうな危険な空き家、そういったものは今回の地震で、さらに危険度が増したと考えるべきだと思います。大変心配ですけど、その対応はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

○環境生活課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

その事案については、やはり通行に支障を来す場合については、予見のできる範囲で善後策が必要だというふうに思っております。それについては、まず今、土地の所有者が建物と違っておりますので、土地の所有者に接触をして、今後の土地利用方法で、建物を壊した場合に例えば土地の価値が上がるので売却するとか、その辺の利用方法等についても検討していきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

+

○13番（田原 実君）

危険空き家ということ全般に関してはそうですね。決まりをつくったから、それに従ってということですけども、ご紹介したいんですが、これは寺町1丁目にあるあの空き家ですね。課長もご存じだと思います。

こちら側は比較的いいんですけど、こちら側の浜の通り、ここのところがもう壊れています。この上のセメント瓦が、もともとずり落ちそうだったんですけども、これがこの道路に落ちずに、逆に屋根そのものが反対側ですけども、内側ですけど陥没をしてしまいました。しかし、もうすぐ壊れる寸前という感じです。ここの瓦、そしてここを子供たちが歩くんです。そういう状況が、けさ撮ってきた写真ですけども、こういう状況であります。待ったなしの状況じゃないかと思うんですよ。どのようにいたしますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

○環境生活課長（渡辺 勇君）

建物そのものには、やはり市としては手をつけることはできませんので、通行に支障を来す範囲であれば、来さないように方策はとっていかなければいけないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

具体的にいつまで。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺環境生活課長。〔環境生活課長 渡辺 勇君登壇〕

○環境生活課長（渡辺 勇君）

基本的に、通行に支障を来すということであれば、道路管理者と協議の上、対処してまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

通行に支障を来す状況になってから動きますよということなんですけど、お尋ねしてるのは、ここは通学路となっていますので、子供たちの上に、この瓦が落ちてしまう状況が今もう目の前で心配されているのに、それに対してのお答えがいただけないんでね、やはり安全ネットをかけますとか、そういうぐらいのお答えを、私、いただきたいと思うんですよ。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉岡市民部長。〔市民部長 吉岡正史君登壇〕

○市民部長（吉岡正史君）

今のご質問で、ちょっと私、場所が正確にわからないんですけれども、いわゆる今、課長が答えましたようにどの道路なのか、市道なのか県道なのかちょっとわかりませんが、基本的には先ほど市長が答えましたように、私ども条例で、まず所有者が誰なのか、それが早急に対応ができるのか。もしできないとすれば、例えば道路側のほうで、その部分を通行できないようにロープ等を張る、あるいは場合によっては、今、田原議員が申し出たように、その建物が非常に危険で落下、倒壊するといった場合には、どうしても所有者が確認できないとか、そういうようなどうしても早急にできないとかという場合は、今のご提案のような対応をとる場合もありますけれども、まず実態を私どもがしっかりと早急に調査、確認し、適切な対応をしてまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

とても残念な答弁でした。私はやはり地震が起きたときに、ここがどうなったか心配になって、直後に、夜ですけど見に行きました。それで今のこの状況を確認しまして、それで市のほうの対策本部に、その場で電話入れたんですよ。それで寺町1丁目に危険空き家があるよと、担当課さんは知っていると、そこをまず現地を見てくださって電話でお願いしたんですよね。でも、部長が知らないって、とっても残念なご答弁でした、その部分は。

確かなところで法律に触れないよというか、利用者の方とのトラブルがないように進めたい

というお気持ちはわかりますけど、やはり目の前に危険な場所があるのに、対応できないというのは残念ですね。もう一度、お考えいただけませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

○副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

市のほうの条例によりますと、いろんなことができるようになっていきますけども、ただ、段階を踏んでということでありまして、したがって、立入調査から勧告、命令、そういったことを手順を踏んだ上で、代執行等もできるようになっております。なかなかその辺が大変なんですけども、ただ、建物につきましては、やはり第一義は所有者であります。その所有者が誰なのか、もしくは所有者が死亡したりした場合は、その相続人が誰なのか、その辺の調査も必要ですし、建物の所有者がもしいない場合は、今度は土地の所有者との話し合いになると思っております。

そういった点を踏まえてやりたいですし、また、小学校、中学校等の登下校の場所であったというのであれば、その辺の対策として、それを変えるということも必要ですし、それから建物が道路に落ちないように措置、もしくは落ちましても通行人に支障のないような、そういう措置から始めたいと思っております。その辺を踏まえまして、ちょっと手順を踏みながらやっていきたいと思っております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

この道路は市の道路なんですよ。だから道路管理者は市でしょう。だから市はやっぱり責任ありますよ。建物だけじゃないんだから、道路なんだから。道路を歩いてるのは誰、地元の子供たちなんです。ですから道路の管理と、それから子供たちへの対応、その辺は教育長、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

今までの答弁のように時間はかかるのかもしれませんが、教育委員会としては子供の安全が第一ですから学校と即、協議をし、通学路の変更とかを考えていかなければいけないと思っております。安全措置が済み次第、また元の通学路に戻すとか、そのような手法はすぐとれると思いますので、教育委員会として努力したいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

あの地区ともよく連絡をとって皆さんで情報を共有しながら、速やかな対応をよろしくお願いたします。

次の質問です。各地区との連携ですけど、先ほど市長の答弁では、遠隔地の地区との連携はできたというお話でした。ただ、11月26日の新潟日報の報道では、糸魚川市が地震直後に警戒本部を設置し、職員約150人が対応に当たり、各地区の区長を通じて情報収集に努めたというふうにあります。これを見ると市内の全地区、全区長との連絡が、ちゃんとできたのかなというふうにも受けとれるんですけども、そこら辺の状況はどうだったか、改めて伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

先ほどの市長答弁のとおり、特に山手のほうですね、震源地に近いほうの区長さん方にも連絡をとらせていただきました。ただ、全地区に連絡をとれたかという点、そうではございません。自主防災組織等が非常に進んでいる地区の区長さんからは、被害はなかったよというような返答をいただいております。現実的には全地区の確認、こちらからはできていないというのが現状でございます。ただ、夜間ということもありまして、なかなか区長さんも地区の中の確認ができないというところはあったかなというふうに感じております。

また、警戒本部に参集いたしました職員が、市内のパトロール等を実施しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

それで連携できたとは、私は言えないと思いますよね。夜間だろうが、区長さんたちは自分の地域の安全をやはり気にしてるわけですよ。そこでやっぱり行政と情報を共有したいという気持ちがあると思うんですよ。

私が伺ったある地区では、区長さんのところへ連絡がなかったそうですし、その後、どういう状況かという報告もないと聞いてますよね。その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

先ほどの答弁では申し上げませんでしたけれども、全消防団員を調査に出向させております。そういうところでも、夜間ではありますけれども、状況を確認をしております。

区長さんとの情報の共有ということは、一つの課題だというふうに考えております。今後も自主

防災組織、それから各地区の代表者の方々と、情報共有できるような体制を進めてまいりたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

全然、防災意識というのは、やっぱり危機感が足りないと思うんですよ。やっぱり各区の区長さんと情報共有できていないんじゃないのって言うたら、もう即、これから区長さんと連絡とりますというぐらいの、課題でございますと今さら言われたって非常に心配ですよ。もう一度、ご答弁いただけませんか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

11月22日の10時8分に発生いたしました地震については、30分に警戒本部を立ち上げ、そして市内全所に対しては、やはりどういう状況であるかというような情報収集を、即、開始させていただきました。その中においては、やはり区長さんから連絡が入るところ、また、山間地がひどいというのは様子わかっているものですから、山間地に対しては、そういう形をとりましたし、また、全域に対しましては、やはり消防団のパトロール、そしてまた夜半であったということの中でそういう形、そしてまた職員のパトロールの中で対応させていただいて、安全確保をさせていただきました。

でありますから、いつでも同じパターンでということではないと思っております。臨機応変な対応の中でとっていくことが大事だと思っておりますので、ご指摘の点についても、またやはりこれ以上、ひどい状況というものがあったら、またどういう対応ができるのか。その時々での対応の中で、我々は取り組んでいきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

これ以上続けても押し問答になると思いますので、次の質問に移ります。

谷村美術館の美術品の被害状況ですけれども、これは詳細についてというのは、お話しはいただけないか。あともう1点、建物そのものへの被害っていうものはなかったのか。それから今後の情報開示、それから来館者の方への対応をどうするか、その点、伺いたいと思っておりますがいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

被害の詳細につきましては、所有者の意向により公表できないという形ですけれども、いずれにしても谷村美術館というのは、当市にとって非常に重要な文化財であり、そしてまた観光資源でもあるというふうに思っておりますので、現在、修復に向けて協議を進めております。

被害の状況ですけれども、仏像2体ということで、仏像は曼珠沙華と聖観音であります。現在は、その壊れた仏像の前に、一応、90センチ掛ける1メートル80センチのパネルを展示しまして、12月3日から開館しております。

それから建物のほうについては、ほとんどというか、見た限りでは被害のない状況ですし、翡翠園のほうについても被害がないという状況です。

来館者のほうについては建物自体に被害がない状況ですので、仏像2体がないということで、入場料のほうは団体料金並みに割り引く形で進めていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

わかりました。よろしく申し上げます。

では質問の2、医療の関係の2回目の質問になります。

糸魚川市の医療の情報は広報、それからホームページで行っているということなんですけれども、この情報提供で改善をしてきた点、私、見ますに、この二、三年ほとんど内容が変わっていないんですけれども、常に情報というのは新しく、また、わかりやすくということが大事だと思いますが、改善してきた点というのはないんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

今、議員がおっしゃいましたように改善ということではございませんが、やはり季節とか時期、そういったタイミングを捉えた形での早い情報の提供ということでホームページ、また「広報おしらせばん」の中では、心がけさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

確かに心がけることは大事だと思うんですけど、やはり見る人にとって情報っていうのは何だろうということを考えていただきたい。私が申し上げたのは、この二、三年ほとんど変わってませんよというふうに言ってるわけですから、やっぱりこのところを工夫したとか、そういうお話を今回いただきましたかったんだけど、残念ながらないということで考えていいですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

掲載の様式等の中では、大きな改善点等はありません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

糸魚川市のホームページの中で、市内の医療機関一覧ということで、病院、医院、診療所という、その中で糸魚川総合病院の小児科と、小児科対応する医院、診療所5件が掲載されておりますが、診療時間等については、直接、お問い合わせくださいというふうに書いてあるだけなんですよね。これで十分と言えるでしょうか。子供さんを抱えて不安に思っている方への対応として、こういうような表記でいいのかなと私は考えるんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

今、ご指摘のように今のホームページ上の中では、医療機関名、所在地、電話番号等が掲載される形になっております。当初は、やはり診療時間については、その都度、動く部分もというような考え方から掲載をいたしておりませんが、その後、医師会、歯科医師会、薬剤師会が、合同でガイドブック等をつくっております。その中では診療時間等を明示しておりますので、医師会、そういった関係機関に意向を確認し、掲載する方向で改善をしてみたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

そうですね。やはり1つの情報を1つのところに出すだけじゃなくて、いろんなところに出していただいて、それで緊急のときに、それがすぐ見れるということにしていきたいと思います。

それで子供の急病のための医療情報というのが、市のホームページからほかのホームページにリンクして飛ぶようになっているんですけども、それをどのように利用しているかということを行政のほうでは何か調査、分析しているのかなと。例えば新潟県の小児救急医療電話相談、そこでの糸魚川市民の利用の状況とか、その分析ということをやっているのかなと、こう思うんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

○教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

新潟県が行っております小児救急医療電話相談でございます。これは平成17年12月から新潟県が実施しているものでございます。

この糸魚川市民の利用状況ということですが、11月末現在では65件と、累計でございます。年度別で申し上げますと、今年度、11月ですが4件、平成25年度、11件、平成24年度、7件、平成23年度、7件、平成22年度、8件というふうな状況でございます。

これにつきましては、この利用の日と時間がありまして、今までは土曜日、日曜日、祝日、それから年末年始の19時から22時でございましたが、この11月25日から拡充いたしまして毎日、それと時間も19時から23時まで拡充されました。ということは、市民にとりましては非常に使いやすくなったといえますか、利便性が増したというふうに考えておりますので、今後とも利用していただきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

利便性が増しただろうというのは、これは行政のほうの考えですよ。利用者のほうはどうだったのかというのを、やはり直接聞いてみるべきだと思うんですね。そういうモニターというか、そういう意見交換の場を市は持ってるかなということなんですけど、その点はどのような努力をされてますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

○教育次長（伊奈 晃君）

今、この電話相談に関する利用者の意見とかは、それを聞くことをしたことございませんが、ここの1月に子ども・子育て支援新制度に移りますことから、アンケート調査を行った中では、やはり夜間等の医療情報といえますか、そういう相談とかも要望がございます。今後、また乳幼児健診等によりまして、そういう意見交換等も含めました保護者からの意見もお聞きしたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

いろんな場面でお母さんたちの声、お母さんだけでなくお父さんの声も聞いて、使いやすいホームページ、あるいは情報発信となるようにしていただきたいと思います。

では、子宮頸がん予防ワクチンの副作用についてもう1回伺いますが、糸魚川市内でこのワクチンの接種を行った子供は何名か、その追跡調査はどのようにしたか。また、母親が対応できない家庭では、父親が娘にどうという状態を聞きづらいのではないかなということも想像するんですけど

も、そういったことについてはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

○教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

子宮頸がんワクチンの接種者でございます。これは平成23年2月から実施されまして、今年度まで対象者数が2,859人のうち実際に打った方は1,135人でございます。

それと家庭内の娘さんとのお話でございますが、この予防接種につきましては初回におきまして、これはどの予防接種もそうなんです、保護者の同意も要りますし、保護者と医師が面談した中で接種する。接種したときの今後はどうするかというお話をさせていただいておるんですが、その中で例えば父子家庭等におきましても、お父さんに来ていただいてお話を聞くと。その後の状況等も当然、家庭の中でお父さんと娘さんとの接種後、どうだったというお話はされてるといふふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

されていると想像しているということですよ、確認したわけじゃないですよ。やはり副作用、それほど報告が出されていないというものの、やはりこれだけ社会的な心配としてあるわけですから、ここはもう少し踏み込んでもいいんじゃないでしょうか。未来ある子供の体のことですから、やはりそのことにもう少し心を砕いてもいいんじゃないでしょうか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

○教育次長（伊奈 晃君）

接種後のいわゆる副反応につきましては、あった時点で医療機関からの報告、あるいは本人といえますか、保護者からの市や医療機関への相談をしてくれというふうには、接種のときにそういうお話もさせていただきました。その結果、先ほど答弁ありました2件があったということでございます。頻度としては少ないとは思っておりますが、今後も医療機関との協議の中で、そういうことがあったらすぐに医療機関、あるいは市のほうへ報告していただくように、さらなる協議をしてまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

それはじゃあ、医療機関にお願いして、医療機関のほうから満遍なくその状況を聞き出していた

だくということですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

○教育次長（伊奈 晃君）

接種の際に、もし打った後、そういうことが起きたときには医療機関、あるいは市のほうへ連絡するようというので、事前にお話してから打っておりますので、何かあったら、もうそういう情報が入ってくるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

では、職場のストレスを原因とする病気というようなことに移りますが、職場のストレスを原因とする病気ということで、市内の状況みたいなものを何か把握しているものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

私どもがつかんでいる状況といたしましては、当課のほうに個別で相談を受けたというような件数でございますが、昨年度で、電話または面接等で12件をいただいているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

12件ですけど、実際はもっとたくさんいらっしゃると思うんですよ。それでなかなか何が原因かというのはわからないようなことなんでしょうけども、何とかこれ治していかないと仕事のほうにも差し支えるし、将来的な不安も出てくるという中で、お困りの方がいらっしゃると思うんですよね。そういった方の相談窓口にもっと行政は積極的になっていただけないかなと思うんですけど、そこら辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

私、当課におきましては、総合相談会、また心の相談会という形で、月1回以上の形でやらせていただいておりますので、そういったところの中でご相談を受けますし、今、議員がご指摘のような経済的云々ということであれば、私ども市の中では生活保護の担当等の連携を図る中で、相談を受けてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

民間の仕事の環境というのは非常に厳しいです。一たびそういう病気になれば休職にとどまらず、解雇、失業という中で、全ての財産、あるいは家族を失いかねないようなところに追い込まれる場合もある。だからこのセーフティーネットということを、行政の方にやっぱり考えていただきたいですよね。行政の皆さんが、もしこのように職場のストレスで病気になったときはどうですか。比較的、恵まれた環境があるんじゃないでしょうか。皆さんと民間の厳しいその差というものを、皆さんは考えたことありますか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原総務課長。〔総務課長 田原秀夫君登壇〕

○総務課長（田原秀夫君）

お答えいたします。

市の職員におきましては、療養休暇が長くなるということになりますと、地方公務員法の規定によりまして休職ということとなります。この猶予期間の間に、職場に復帰するよう療養することとなっております。また、民間企業におきましては労働基準法に沿いまして、それぞれの事業所において、それぞれの規程によって取り扱われているというものであります。公務員、事業所、それぞれの取り扱いがありますので、一律ということではないというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

当然、一律じゃないですよ。それで、やはり公務員の方と民間、あるいは個人営業でやってる人の、その差たるや大きいわけですよ、民間は厳しいの。だからそういった皆さんへのセーフティーネットというのを、どう考えてますかということが質問なんです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

冒頭の答弁でお答えさせていただいたように、地域振興局とガイドブックをつくりまして、各事業所にご配布をさせていただいております。やっぱり企業におかれましては、職員が病気になるということは非常にダメージも大きいわけですので、即、クビということにはならないと思っております。そういう形の中で治療していただいて、何とか復帰できるような対応をしていただきたいというようなことで、そのガイドブックをお配りさせていただいて、そのようなことのないようにさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

そうですね。企業へのお願いというか働きかけ、これも続けて強めていただきたいと思います、そういう企業の対応のないような方も、やっぱり中にはいらっしゃるわけですね。家族を抱えて心配をする方もいらっしゃると思います。

それで私が今回、皆さんにお話したいことは、行政のほうにやはり相談窓口というものがあれば、それも何とかな、肩肘張らずに、先ほど月に1回の相談会てありますけど、月に1回といわず常時、よろず健康のことで、例えば会社にもまだ話せないけど、こういうことってどうだろうというような相談をさせていただけるような窓口というものをやはり開設していくような、行政の中に置くことが難しければ、せめて病院のほうに置くとか、そういったものを考えていただきたいなど、こう思うわけなんです。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

相談会、今言ったような離職とか、そういう部分の関係だとちょっと意味合いが違ってくるんですけど、やはりそういった場合ですと心を患うというような場合もございますし、先ほど月1回以上と申しましたのは、3地域それぞれ1回以上やっておりますし、そのほかに心の相談会という形でも年間15回ほどやっておりますし、また、相談につきましては、私どもの保健師のほうで随時、受け付ける体制をとらせていただいておりますので、ご承知おきをお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

それは保健師さんが、例えば相談をしたい相談者のご自宅だとかへ足を運んででもやってくださるんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えいたします。

ケース・バイ・ケースでございますけども、基本的には出向く形の中で対応させていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

であれば今回質問に挙げました若年性アルツハイマーとか、そういう働き盛りの方が、本来はこれからも働きたいのにそういった病気になってしまったようだという場合でも、市のほうに問い合わせをすれば、自宅などへ来て相談に乗っていただけるというふうに考えてよろしいのでしょうか。診療所ですとか、病院ですとか、そういったところに紹介といいますか、情報を十分に出していただけるというふうに考えていいのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えいたします。

全て保健師が課題を解決できるわけではございませんが、今、議員さんがおっしゃいましたように、それぞれ専門の部分がございますので、そういった部分を紹介なり、またつなぐ中で対応してまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

この相談というような形の中で市民の命を守る、また、医療機関のほうも、やはり相変わらずの医師、看護師不足でありますから、病院のほうの現状も、また市民の方に伝えていくような形をさらには深めていただいて、地域医療に悩む糸魚川、1つでもその悩みの中から市民の方に光を見出していだけるような対応をよろしくお願いしたいと思います。

では質問の3、新幹線開業への対応ということで、今回はえちごトキめき鉄道の活用について、項目を挙げて伺っております。

ダイヤ編成、それから連絡割引など、今後、検討していくということでもありますけど、この目的は何かと言えば、やはり利用者をふやすこと、それから糸魚川駅を活用するということになるかと思えます。

それで私からの提言としましては、例えば糸魚川から首都圏のほうに行くときに、特急、新幹線を乗り継いで行って、さきの首都圏フリー切符というんですか、あるエリアを決めていて、そこだったら乗りおり自由というのがありますよね。その逆バージョン、首都圏のほうから糸魚川のほうへおいでいただくときに、えちごトキめき鉄道の範囲をフリーで利用できるような、そういった切符を考えると、そういうふうなことを今から進めていただきたいなと思うんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

えちごトキめき鉄道では、一応その区間の、この間、運賃は発表といいますか提案させていただ

きましたが、今、その辺、JRのほうでも特急、新幹線の企画切符というのは今後の課題になると思いますし、また、今提案の逆バージョンについても、その反対の形ということで、今後、そういうものもえちごトキめき鉄道の内部、それからその辺の区間の中で、どういうものができるかということは今後の課題となりますし、今正直、提案する中では、そこまでのえちごトキめき鉄道の体制、今、引き継ぎに精いっぱいというところもございますので、1つのアイデアとしては、そういう話も提言してまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

今まで一般質問や、それから特別委員会の中で、えちごトキめき鉄道の利用者をどうふやすかというのが、ずっと課題でありましたよね。この後にお話する押上駅に関してもそうですよ。新駅、利用者が多ければつくりますという話。だから私たちの目的は、えちごトキめき鉄道の利用者をふやすことですよ。今、引き継ぎに大変忙しいというお話ですが、であるならば、やはり行政の課長さんのセクション、それから交流観光課の皆さん、そういった方がやはり知恵を出して、こういうことをやりましょうよと今から情報を集めて整理しておいて、シンクタンクになって取り組んだらいいんじゃないですか。そういうことを、どうしてやらないのかなって思うんですよね。えちごトキめき鉄道のことはえちごトキめき鉄道のことだから、口出せませんというようにも聞こえますけど、利用者をふやすための工夫、みんなでやりましょうよ、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

私どもも提案の中で管内での割引切符等、こういう企画切符は提言しておらないわけではございません。今、新幹線とのそういう絡みについてもいろいろ提案して、ただ、結果としてというか、まだえちごトキめき鉄道の中では、そこまで踏み入った回答なり、その辺の企画について明確な答えが返ってないという状況の中ですので、私どもはそういうご提案については意見として、またこういうものができるんじゃないかという話はさせてもらったこともありますし、また、していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

えちごトキめき鉄道の会社の立ち上げって早かったじゃないですか。にもかかわらず、そんなに行政とえちごトキめき鉄道の間には壁があるんですか。もっと一体になって進めているのじゃないかなと思ってたけど、意外でしたね。副市長、どうですか。副市長、関係者としていかがですか、そこら辺。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

○副市長（織田義夫君）

お答え申し上げます。

今、えちごトキめき鉄道のほうは、来年3月14日に電車の運行をJRから引き継いで、安全、確実に運行するというので、今、そういったスタッフをJR西・東から出向してもらいまして、そっちの方面に一生懸命、全力投球しているというのが実態であります。したがって、いろいろなことを私ども協議をしたいんですけども、協議をする部署というのが、なかなか手薄な状況であります。

そういったことで来年4月から、確かにえちごトキめき鉄道が運行された段階からは、具体的な協議をしていきたいと考えているところでもありますけども、今は少し、いろんな提案をしましても受け取ってくれる部署がなかなか手薄で、その辺についてはちょっと私も歯がゆい面もあるんですが、実際として、そういう状況だということでもあります。そういったことで利用者をふやすとか、利便性を高めるといったことについては、当然ながら提案をしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

利用者をふやすための提案をすると、あわせて行動を起こしていきましょう。もう既にトキーツサポーターズクラブということで、先ほど参加者の人数も発表されました。糸魚川は236名と。さて、この中で行政の職員の方というのは何名かというのはデータありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

基本的に、行政の誰々がというのはデータとして問い合わせてはみましたが、その辺、個人情報ということでそういう形での、人数の確認はさせてもらいましたが、どこの誰々がという形での情報の開示はしてもらえませんでした。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

何名を目指しますか。糸魚川エリアは500人だっていうんだね、全部でね。その中で行政の方は、せめて3分の1くらいは行政の方でトキーツサポーターズクラブに入るべきじゃないですか。地元の押上区は一生懸命やってますよ。駅つくってもらいたいから、押上区はサポーターズクラブへ入ってるんですよ、たくさん。皆さんは、そういう努力をしてるかということですよ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

これは部課長会議の中でも、トキーツサポーターズクラブの募集を求めていますし、これはえちごトキめき鉄道がだめなら各課に聞けないことはありませんが、基本的には500人の中で、できるだけ多くというのは当然のことです。その辺につきましては、私ども市の職員もありますし、それから、ぜひ地域の皆さんにも入っていただきたいと思っておりますし、また、議員の皆さんにも入っていただきたいと、このように思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

よろしくお祈りします。みんなで入りましょう。

それで最近の新聞報道で、この新駅設置についての報道がありました。そして糸魚川・梶屋敷間では黒字になると、つまり新駅をつくる可能性というのがぐっと高まったわけなんですけど、この記事等、ご存じだと思いますが、これを受けていかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

先日12月2日に、新駅可能性の調査結果ということで開示されております。この中で糸魚川は2駅、可能性調査をした中で梶屋敷・糸魚川間では、これは駅をつくる費用というのは除いた中で運営なり収入を見込んだときには、プラスの可能性があるという調査でございまして、私どもはこれを受けて、この12月議会の中で新駅の予算のほうを計上させていただきますので、詳しくは、その中で説明をさせていただきたいと思っておりますけど、もともとうちのほうは利便性の向上のためにということで、こういう新駅についても、できるものであればという形でお祈りした結果で、今、こういう状況だというふうに理解しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

こういう状況って言うと何かわかったような気がするんですけども、役所の中の状況というのは、私はまだ十分わからないんですよね。新聞報道にあるものと皆さんとの差というのも、当然あると思うんですけども、現時点で、まだ新駅設置を表明できない理由というのは何なのかなというふうに思うんです。そこいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

+

今、えちごトキめき鉄道の結果は、特に先ほど申し上げました新駅をつくる費用というのがここに入っておりませんので、この辺もう少し。公表で代替策というところがございますが、これをももう少し詰めた中で、利便性が増すというのは、これは駅が細かければ細かいほど利便性が増すわけですけれども、それに対してじゃあそれをつくった後の維持、それから経費、そのほかに将来の利用とか、そういうものももう一步進んだ調査をして、市の調査も含めた中で、次の段階に進んでいきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

駅利用の見込みが立って利用者がふえる見込みができれば、市としては、糸魚川市は新駅をつくりたいですということを表明をするということによろしいわけですね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

駅の経費とか、それから今、この中で公表されておりますまだいろんな、例えば駅だけつくって課題じゃなくて、ほかの駅との関連とか、それからいろんな乗り継ぎの関連とかもありますので、そのようないろんなものをクリアした中ですが、今は実際、糸魚川市のこの箇所に駅をつくらしたら、もう少しどれぐらいかかるかということも見た中で、次の段階に進みたいということがございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

やはり判断をするためにはさらなる調査、当然ですよ、やっていただきたい。しかし、もっとスピードアップをしていただきたいなと思うんです。それは判断が先に延びれば延びるほど、決断も鈍るでしょう。市長が決断をされると思うんですけど、つくるといふ決断、しかし、つくらないといふ決断もある。つくった責任をどうとるかということも心配するんですが、私はつくらなかったときの責任を誰がどうとるかということも心配しております。そこはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

時間がかかるとおっしゃっておられますが、そうではなくて新聞報道を見ておわかりのように、今の調査の中では可能性が高いという答えが出たわけでございますので、我々といましては、新駅をつくりたいという立場の中で進めてきたわけでございますし、また、それを受けてさらに詳

細調査をして、新駅設置のほうに今進めていきたいということで取り組んで、今回もまた補正予算を上げさせていただいているわけであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

事前審査になるというところとまずいんですけど、やっぱり市の役割ってあると思うんですよ。JRさんへの働きかけ、県への働きかけね、いろいろとそういう役割がある。そこら辺の役割をどのように整理されているか、いま一度お聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

○副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

今は新駅設置に向けまして、手順を踏みながらやっているということでありまして。したがって、県のほうから補助を受けまして、これから詳細調査に入ることです。今現在は、北陸本線をまだJRがしとりますので、JRが運行してる段階で決定とか、そういうものはできませんので、このまま進みますと最終的にはえちごトキめき鉄道のほうが、国土交通省の認可をもらって、新駅設置というようなものになるのではないかと想定してはいますが、今の時点では、現在そういう状況だということで、新駅設置に向けまして手順を踏んで、今、調査をしているということでありまして。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

えちごトキめき鉄道の活用ということでございますので、新しい感覚というものを取り入れていきたいということから、長岡造形大学の学生さんに地域に入っていただいて、アイデアを出していただくということを掲げておりますけど、こういったことを進めることについていかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

長岡造形大学をご提案いただいているわけですが、私は大学1つということに限らず、いろんな人から、いろんなアイデアをいただく中で、取り組んでいきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

では、いろんな方からアイデアをいただくには、どういう場を設けて、どのように進めますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

その都度その都度やはりいろんな方々に、そのものに関してご意見を伺うような対応をとっていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

いただいた意見が実現しない可能性が出てまいります。やはり1つのきっかけを持ったところに深く連携をとってつなげていくほうが私はいいと思う。ぜひ長岡造形大学に相談してはどうでしょうか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

田原議員の長岡造形大学に対する思いというのは非常にわかるわけですが、我々はその1つの大学にてこだわっておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

時間がまいりました。終わります。

○議長（樋口英一君）

以上で、田原議員の質問が終わりました。

次に、保坂 悟議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。〔6番 保坂 悟君登壇〕

○6番（保坂 悟君）

公明党の保坂 悟でございます。

発言通告書に基づき1回目の質問を行います。

1、子どもの教育環境整備について。

(1) 小中学校のエレベーター設置について。

身体に障害がある子どもが普通学級で授業ができるように生活環境の整備をすべきです。

また、災害時の避難所となる学校のバリアフリー化としても設置すべきと考えますがどうか。

(2) グラウンドや公園等の時計について。

時計を持たない子どもたちにとって屋外の時計は大切です。時計が無いところや故障しているところへの対応はどうか。

(3) 幼児期からの英会話に慣れ親しむ教育の推進について。

今年11月20日に文部科学省が中央教育審議会に諮問した英語教育の趣旨は、「小学校中学年で音声に慣れる。高学年で伝え合う能力を養う。中学校では英語で授業を行い、伝え合う能力を高める。」とあります。子どもたちがグローバル社会で思い切り活躍できるように、幼児期から英会話に慣れ親しむ環境を積極的に提供してはどうか。

2、権現荘について。

(1) 権現荘の設置目的について。

権現荘は「地域住民の福祉、交流促進に資する施設」として条例設置されています。目的に対する成果はどうか。

(2) 市直営施設としての役割について。

- ① 権現荘の地域貢献度はどうか。
- ② 市直営ならではの利用者サービスは何か。
- ③ これまでの民間宿泊施設との連携はどうか。

(3) リニューアル後2年間の経営戦略について

- ① 権現荘の経営スタイルを決めるための市場調査と経営戦略の作成は、誰が、いつ、どのように行うのか。戦略の最終判断は市長でよいか。
- ② 市直営宿泊施設として、どのような成果を目指すのか。
- ③ リニューアルオープン時に泊まって楽しい企画はあるか。

(4) 指定管理者制度への移行について。

2年間の直営で黒字になった場合と赤字になった場合の対応はどうか。

3、鉄道会社と協力した観光振興と地域づくりについて。

(1) 地域づくりのための無人駅の活用について。

無人駅を小さなカフェや雑貨店、産直ミニ市場、ミニ展示場にするなど地域のコミュニティの場にしてはどうか。また、地域おこしとして駅舎自体を特徴ある観光スポットに作り替えるのはどうか。

(2) 子どもに喜ばれる糸魚川駅の構築について。

ジオステーションジオバルは、男の子にとって魅力的な施設になります。さらに女の子向けの企画も入れて、季節に関係なく冬でも遊びや学びができる、子どもにとって楽しい駅を目指してはどうか。

(3) 新幹線高架下の活用策について。

屋根があり細長い丈夫な構造であることを活かし、スポーツ施設や子どもの遊び場を、許

される範囲で設置してはどうか。

(4) トレイナートの実施について

和歌山県のJRきのくに線で、「紀の国トレイナート」が行われております。この手法を糸魚川市でも行ってはどうか。

4、早急に取り組むべき課題について。

(1) 北陸新幹線の整備工事に伴うテレビの電波障害について。

光ケーブル使用料の20年間相当分を補償することに対して、該当者から本当に納得が得られているのか。

(2) 防犯カメラ設置について。

依然として不審者情報が絶えません。子どもや女性を守るため、事件や事故の抑止効果を高めるためと証拠映像を残すために、保育園や学校等を中心に防犯カメラの設置を推進すべきと考えますがどうか。

(3) 子育ての不安解消対策について。

育児不安やしつけへの自信喪失、無責任な育児放棄といった家庭教育力の低下が指摘されております。親としての学習の場が必要と考えますが、その対策はどうか。

(4) 市営住宅の安心安全な管理について。

入居状況の把握や玄関照明の有無など様々な課題の対応はどうか。

以上で1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

保坂議員のご質問にお答えいたします。

1番目の子供の教育環境整備についてのご質問について、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしく願いいたします。

2番目の1点目につきましては、地域住民の皆様からは憩いの場としてご利用いただくことで福祉の向上につながっており、また、日帰り入浴や宿泊利用により、交流促進が図られているものと捉えております。

2点目の1つ目につきましては、食材等の仕入れのほか雇用や交流人口の増加により、地域貢献をしているものと考えております。

2つ目につきましては、公共の宿として入浴料も含めまして、利用しやすい料金設定に配慮いたしております。

3つ目につきましては、柵口温泉郷と宿泊プランや料理プランを共有し、広告宣伝などで連携を図っております。

3点目の1つ目につきましては、平成22年度に策定したリニューアル基本計画に基づいた経営を実施することで、成果を上げていきたいと考えております。

2つ目につきましては、利用者の満足度の向上と利用者の増加により、これまで以上に地域に貢献できる、地域の核となる施設を目指してまいります。

3つ目につきましては、バリアフリーやレストランなど、今回のリニューアルで向上する機能を生かした企画を検討してまいりたいと考えております。

4点目につきましては、リニューアルの利点を生かして収益を上げ、円滑に指定管理に移行できるよう進めてまいります。

3番目の1点目につきましては、駅の利活用は地域、鉄道事業者、行政が、一体となって取り組むことが重要であると捉えております。

2点目につきましては、プラレール、ローラースライダーなど男女を問わず、子供が楽しく過ごせる体験施設を目指しております。

3点目につきましては、高架下の利用について鉄道・運輸機構からJRに移管することから、今後は管理するJRと利用について協議していきたいと考えております。

4点目につきましては、市としてどのような取り組みができるか検討してまいります。

4番目の1点目につきましては、対象地区の説明会では、さまざまな意見が出されている地区もありまして、今後も丁寧に説明し、理解していただくよう、鉄道・運輸機構と連携して対応してまいります。

2点目につきましては、今のところ保育園、学校での設置は考えておりませんが、市全体としては、プライバシーの問題などを精査する中で検討してまいります。

3点目につきましては、保護者に対して研修会や学習会、相談支援を実施しております。

4点目につきましては、住宅管理人や入居者と個別に相談、協議をする中で対応しております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もごございますので、よろしくお願いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

保坂議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、現在、市立学校22校中9校に設置しており、今後は大規模改修にあわせて設置の検討をしてまいります。

2点目につきましては、全学校のグラウンドや一部の公園には設置しており、故障した場合には修理を行っております。

3点目につきましては、ALTを小学校をはじめ幼稚園、保育園へ派遣し、外国人とのコミュニケーションや海外の文化に親しむ機会を設けております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

じゃあ2回目の質問を行います。

まず、エレベーターの件であります。

当市でも少子化や行政改革等の視点から、学校の統廃合が進むことが予想されます。まず、地域の基幹校となる中学校において、このエレベーターの設置を行い、その後、人口が集中している小学校の順番でエレベーターを設置すべきと考えますが、そういう考え方についてはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

○教育次長（伊奈 晃君）

お答えいたします。

学校へのエレベーター設置でございます。今ほど議員おっしゃるとおり市では学校の設置状況、設置年度等、その改修の度合いはどうだということで、計画を持って大規模改修等を行う予定でございます。今おっしゃられた中学校につきましては、全ての学校の耐震化はもう終わりましたので、今度は大規模改修等に移るわけですが、中学校を優先で、今、大規模改修を行う予定で計画をしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

ぜひ中学校を中心に進めていただきたいと思います。

エレベーターの利点は、学校給食の運搬や学校行事で使う机や椅子など、そういうものを運搬することを容易にするという点と、また、地域の高齢者や車椅子の方でも、学校で行われる行事に気軽に参加していただけるような環境になりますし、また、災害時においても避難所としても、けがをされている方や障害のある方が安全に上の階へ移動ができると。いろんな多目的な意味でもエレベーターの利点というのはありますので、そういった点を加味して、積極的に設置に向けて動いていただきたいことを要望しておきます。

次に、グラウンドと公園の時計であります。

市内のグラウンドや公園における時計の設置基準というものはありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

○教育次長（伊奈 晃君）

特に学校では基準はございませんが、校庭から見える校舎のどこへ全部つけておるというところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

今回、一番聞きたかったことは、青海の名引グラウンドですかね、あそこに照明器具が新しくな
んか設置された後、もともとそこに時計があったらしいんですね。しかし、それがなくなっている
と。いつまでたってもつく気配がないということを伺っておるんですけども、つける気はないんで
すかね、その辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

竹之内生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 竹之内 豊君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（竹之内 豊君）

青海の名引といいますのは、青海総合グラウンドという名称の施設だと思えますが、スポーツ施
設ということで有料施設、主には子供たちが子供たち同士で気軽に遊ぶ住宅近くの公園や広場とは
違いまして、チームでの練習ですとか、保護者が送迎したり、あるいは指導者がついての利用許可
をとっての利用ということでありますので、時計については、現在のところついておりませんが、
ニーズ等もまた検討してみたいとは思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

その施設を利用されている方の声として伺ってきましたので、やはりいろんな意味で屋外に時
計があるというのは、子供たちにとっては非常に便利だと思いますし、ましてやああいうグラウン
ドで何か行事があったときに、時計をいちいち持ってきてつけるのではなくて、やっぱり常時、設
置しておくことがベターだと思いますので、ぜひ前向きに、設置に向けて取り組んでいただきた
いと思いますが、そういう考えでよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

竹之内生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 竹之内 豊君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（竹之内 豊君）

検討させていただきます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

よろしくお願いたします。

次に、幼児期からの英会話になれ親しむ教育の推進であります。

6月議会で、経済力による学力差を生まない取り組みとして、燕市のJ a c k & B e t t yとい
う英語教室について紹介をいたしました。今回はもっと年齢を低くした、3歳児向けの英会話レ
ッソンの無料講習という取り組みについて、ちょっと他市の自治体の取り組みがあったものでは
から、それをちょっと紹介させていただきます。

大分県の豊後高田市では、人口約2万3,000人ですが、ことし7月から、3歳から始

める英会話 e スタート事業というのを行っております。好評を博しているそうです。

豊後高田市のホームページによりますと、国際化が進む中、子供にさせたい習い事ランキングで常に上位を占めているのが英会話です。また、3歳児といえば言葉を覚え始め、他者とのコミュニケーションがとれるようになる年齢でもあります。この e スタート事業では、市内の3歳のお子さんにインターネットを介して英語圏の講師と英会話レッスンができる環境を提供しますと紹介されております。

レッスンの内容は英語圏講師、この場合はフィリピンに在住されている方が先生なのですが、英会話レッスン15分と、あと想像力を養うレゴ、あのレゴブロックなのですが、それを教材にしたレッスンということで、英会話レッスン料は1年間として45回シリーズ、1回800円で合計3万6,000円、これを市が全額補助。また、レゴブロックの教材については6,048円するんですが、これに対しても市が半額補助ということで行っております。

ただし、授業を受けるにはインターネット環境が必要となり、さらにインターネットを利用してテレビ電話ができる無料ソフトウェアのスカイプというものを利用しておまして、カメラ付きのパソコンかタブレットが必要となっております。対象児童は3歳児のみと、この場合だと平成22年4月2日から平成23年4月1日生まれに限定して行っていると。自宅にインターネット環境がない方に対しても保育園や幼稚園のお迎えの際に、園や拠点施設で保護者と一緒に15分間のレッスンが受けられるようにタブレット端末を置き、教材を置き提供していると。

このように、さきの文部科学省の動きもありますけども、日本の英語教育については、もう大分、大転換期にきてると私は思っております。当市の子供たちが、地域の宝である子供たちが、この英会話力でほかの自治体におくれをとらないように、もう今のALTの学習が悪いというんじゃないですけども、さらに一步深めるような意味で、こういった取り組みがほかの自治体で行われているので、研究していただいて、できれば導入していただきたいと思うんですが、そういった考えについてはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 渡辺寿敏君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（渡辺寿敏君）

お答えさせていただきます。

糸魚川市ではALTを4人迎え入れておまして、中学校に在籍しながら小学校にも派遣してまいりました。ですが数年前から、幼稚園、保育園にも派遣を始めております。というのは、現場からのやはり要望がありまして、先ほど議員さんがおっしゃったように、やはり非常に低年齢のうちから英語環境に親しむというのは、大事なことではないかという要望からです。

ちなみに平成25年度は、幼稚園、保育園には77回派遣しておりますが、平成26年度、今年度は、この12月までで88回派遣しております。まだ残り3学期分がありますので、今後もふえていくだろうというふうに考えております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

今、私が紹介した考えについては取り組まないというような感じで受けとめさせていただきましたが、要は、多分一番心配されるのが、中学校になってから英語で授業を行うっていうものに対する親の不安感というのが、多分あるんだと思うんですね。少なくとも今、ALTの先生方で強力に推進していただいておりますので、また周りの自治体の様子も見ながら積極的に、環境を整えるようであればそういったことも、またニーズがあるということで研究していただきたいと思います。きょうは要望にさせていただきます。よろしくお願いいたします。

続きまして、権現荘についてであります。

権現荘の設置目的についてであります。私としては、この権現荘の設置目的に観光を明確に入れるべきではないかという考えであります。権現荘自体の施設の目的に、実験調査宿という位置づけで、外貨を稼ぐためのさまざまな誘客プランを試す機関にすべきと考えます。公の宿だからこそ、民間ではできない地域のビジネスモデルに取り組み、そこで得られるデータや情報などを民間に提供する施設にすべきと考えますが、このような取り組みはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

○能生事務所長（原 郁夫君）

お答えいたします。

観光のモデルとなるような、また、そういったことを学習するような宿にならないかということでもありますけれども、実はこの春から上越のJーホールディングスに加盟している温泉宿でございますけれども、そちらの経営者の方ですとか従業員の方が、入れかわり立ちかわりこちらの権現荘に来て、そのノウハウを学習しているという実態がございます。そういったことが、もっと広がっていけばいいなというふうには考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

確認ですけど、市長から答弁いただいたそもそもの設置目的、これはもうこのままで変えないでいくという考えでよろしいですか、確認です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

権現荘の設置目的については、議員がおっしゃるように条例で規定されております。現在のところ、その条例の目的を変更するという予定はございません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

わかりました。

そうしましたら、地域に貢献度ということで非常に大事になってきますね。そうしますと、今現在、能生地域ではスキー場、ゴルフ場、海水浴場といった観光施設があるわけですね。それに対する宿泊、要はそういうところを利用した方が、権現荘に今度は宿泊するという、そういう連携の効果というのは、いわゆる地域にお金を落とすという部分で、そういった連携の効果というのはどのように出てますか、これまでの権現荘の経営についてでありますけども。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

○能生事務所長（原 郁夫君）

観光施設といいますか、いろんなお客様が立ち寄る施設と、その泊まる場所の連携ということではありますが、これは当然、認識しておりますし、そういうことの効果というのを求めているということは当たり前でございまして、例えば私たちの権現荘で、冬のアニバーサリープランで泊まったお客様に対しては、マリンドリームの500円の買い物券をつけて差し上げるとか、そういった連携というのは当然とっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

済みません。例えば1つぐらいしか出なかったのが、非常に残念な思いで聞いとるんですけども、もっと具体的にいろいろあるかと思ったんですが、非常に残念です。

次に、今度は地域の方の利用率といいますか、ざっくりでいいんですが、地域の方がどのぐらい権現荘を利用されているか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

○能生事務所長（原 郁夫君）

地域の方は、どちらかというと日帰りの宴会、ないしは日帰りの入浴ということでございます。こちらのほうで私たち数を確認しておりますのは入浴ということで、平成25年は、3万1,487人という数字が上がっております。宴会のほうはちょっと数字はございませんので、よろしく申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

多分、これ全体の人数の利用者だと思いますけども、地域への貢献度、地域のためのこの施設としての役割という点では、なぜ把握されないんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

○能生事務所長（原 郁夫君）

地域に対する貢献度というのは把握の仕方、こういったジャンルでと、いろいろな見方がございますので、それを数量的に把握していくというのは、なかなか難しいことなのかなと思っております。ただ、もし金銭的な貢献ということであれば、例えば雇用面であれば延べ50人の職員を雇っておりますし、金額ベースでは平成25年で6,647万9,000円の支払いがあると。また、食材でありますと5,432万7,000円の支出があるということで、こういったことが地元といいますか、業者に還流をしているということが言えます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

ありがとうございます。

今ほど聞こうと思った質問なんですけども、地域貢献という観点から食材やお土産、石けんなどのアメニティグッズの市内地元業者の納品率をお伺いしようかなと思う。5,432万円全て、地元業者ということでよろしいですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

○能生事務所長（原 郁夫君）

済みません、説明が足りませんで、平成25年の食材の仕入れでございますけれども、こちらのほうは市内業者でありますと21社で2,637万4,000円、売店の仕入れにつきましては、38業者で987万2,000円というのが統計で残っております。済みませんでした。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

細かい数字を聞くつもりはさらさらないんですが、その地域貢献度という部分で、今言った食材、お土産、アメニティグッズ、またはシーツ等のクリーニングや清掃などの地元業者の利用、あとは施設自体の部屋の修繕や施設の修繕工事等のもの。権現荘の先ほど言ってくださった雇用の50人、地元雇用の度合いというものを明確に、これだけやっていますというものを私は公表していかないと、この地域貢献度というのが地元には見えないと思うんですよね。その辺を今後どのようにしていくのか、あからさまにしていくのか、その辺をお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

○能生事務所長（原 郁夫君）

私どもの権現荘というのは、大体、年間2億1,000万円ぐらいの収入があって、それでここ平成24年、平成25年は収支均衡ということで、収支トントンということでございます。2億1,000万円が入ってきて、それがそっくり形を変えて出ていくということでございますので、それがいいように地域の方々に還流してるというふうには、私は外では説明はしてるんですけども、それがじゃあどの業界にどれぐらいというのが、なかなか仕分けというのは難しいんですけども、今後は努めて、そういうことも数字として把握できるようにしていきたいというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

私、難しくないと思います。地元業者の利用している金額がばつんと出るわけですから、それで地元では、これだけ貢献してますよって胸を張って発表すればいいと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

○能生事務所長（原 郁夫君）

今後、そのように拾い上げて、ちゃんと個別にどれぐらい貢献しているんだということが、わかるようにしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

次、②番のほうにいきます。

市直営ならではの利用者サービスについてであります。公の宿として民間では出せない特徴やサービスというものがあるかと思うんですが、権現荘の一番の売り、もしくは何が一番売り上げに貢献しているのか、どのようなサービスがあるのか、ちょっとご紹介ください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

○能生事務所長（原 郁夫君）

温泉宿は各それぞれのお店が、もう独自のそれぞれの戦略、戦術を持って、自分のお店の売りですとか、そういうものを必ず持っているものでございます。うちとしても当然ございますので、これは支配人と12月2日の日に改めて協議をしたんですけども、売りは何かということでお話をしたんですけども、おいしい食事であると。特に海の幸を重点的にお客様に提供することによって、

リピート率を高めていくんだということの戦略をとっているということでもあります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

ちょっと角度を変えますけども、権現荘の利用者に対して糸魚川市で提示をしたくなるような情報発信とか、あと権現荘でこの糸魚川の伝統文化を披露するようなイベントとか、あと世界ジオパークのジオサイトに行きたくなるような情報の発信とかというのを、権現荘でどのように今まで取り組まれてきたか、あれば教えていただきたいんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

○能生事務所長（原 郁夫君）

いろいろな行政の取り組み、またイベントですとか、そういった情報につきましては、チラシ等をいただければ、必ずそれがお客様に伝わるように見やすく置くというような形。また、予約等々があった場合には、こういうことがありますというような提供も、努めてやっているつもりでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

ちょっと期待したより弱い、チラシを置くということですね。そのチラシという面では、次の③になるんですが、民間宿泊施設との連携の中で権現荘の利用者に対して、市内のほかの民間の宿泊施設のパンフレットとか、しおりの提供とか、あと市内の各店舗の得意料理や、特徴あるサービスについての紹介とか、そういった取り組みはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

○能生事務所長（原 郁夫君）

全ての宿について、それをできるかというのと、なかなか難しいですけども、今、私が持ってまいりました柵口温泉郷のものについては、お料理の共通のプラン、泊のプランを設けておりますので、こういったものでほかの温泉宿との連携をとっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

もう少しエリアを広げていただいてご紹介いただけると、市直営の意味というのがあるかなと思いますね。

次、リニューアル後、2年間の経営戦略についてであります、これまでのやり方では赤字経営になっていて苦しんできて、今、やっとトントンになってきているというお話なんですけども、今後、権現荘における特徴づくりとして、市場調査を私は行うべきだと考えております、2年間、経営していく上で。その市場調査を行うに当たってのターゲットというのは必要になってきますが、今、その辺を考えて取り組んでいるのか。

具体的には、外国人向け、障害者向け、高齢者向け、若い女性向けみたいな、そういうものに取り組んでいるのか。また、そういうものがあつた上での戦略として、今、具体的にどのようなことを考えているのか、その辺、教えていただければと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

○能生事務所長（原 郁夫君）

これは増収に関する戦略、戦術そのものでありまして、2日の日に小林支配人と、そのあたりどうなのかということで話をさせていただきました。

ここ3年ぐらいはブランドを大切にす営業ということで、四季の食、例えば春はセイカイ、夏、アワビ、秋、ノドグロ、冬、アンコウ、それでカニは4シーズン全部食べられるということで、また、バージョンアップができるタイプのものもあるということで、とにかく1泊2食が、平成25年が1万1,500円だったものが、営業をかけたして1万2,500円ということで、平均で1,000円上がっているという、そういった料金的なものの戦略もありますし、今後は支配人としては、朝食のレベルアップを図って、来年の8月のリニューアル後は、平均として1,000円の料金アップができないかなという戦略でいきたいというふうに考えております。当然、今以上の成果を残していけるように頑張ると、また、自信もあるということによっておりましたので、ぜひ頑張ってもらいたいというふうに考えています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

今、季節に合わせた取り組みというのを聞こうと思ったので、既におっしゃっていただいたので、そのとおり頑張っていたきたいと思います。

その上で季節の取り組みと同時に、いろんなほかの観光地を見てますと、やっぱり宿泊を誘発するために夕方イベント、夜イベント、あと朝方イベントというのを皆さん結構、一生懸命取り組まれているんですね。当市には能生地域のジオサイトというものもございまして、このジオサイトと絡めてジオサイトのライトアップだとか、効果音だとか、笑いがとれるガイドを養成してついでにもらおうとか、あとジオサイトの季節になるんですが、温かいものを出したりとか、冷たいものを出したりとかいうことも含めての、朝と夜と夕方のそういった取り組みというのを、今、戦略としてどんなふうに考えているのか、お伺いしたいと思いますけど。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

権現荘につきましてはやはり公共の宿として、今、議員ご指摘のように我々行政が取り組んでおる交流人口の拡大というものがあるわけでございますので、その辺をやっぱりしっかり出すべきと捉えております。

そしてまた上南地区においては、今、上南の活性化プランというものもつくられておるわけでございますので、その辺の位置づけもしっかり位置づけられておるわけでございますので、その辺もやはり地域と連携をさせていただいて、地域の食文化、または今、ジオパークのジオサイトの情報をしっかり出していけるようにしていきたいと思っております。

そういう中においては、やはり四季折々の食文化というのもしっかり提供していきたいと思っておりますし、先般、麴町飲料組合の皆様方がお見えいただいたときには、やはりズイキみたいなものに対して非常に注目をしていただきました。まさしく我々糸魚川の食文化に対しては、非常に評価の高いものと受けとめておるわけでございますので、能生地域においてもそういうものがあるわけでありまして、そういうものをしっかりみんなと連携をとって、情報発信の核になっていくようにしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

精力的に取り組んでいただきたいと思えます。

ちょっと聞き方がいいのかどうかわからないんですけども、市直営宿泊施設としての今度、2年間の成果をどこに目指すかということなんですが、交流人口拡大という部分であると、やっぱり宿泊人数で攻めていくのか、むしろそうじゃなくてお金の面で客単価、先ほど1,000円アップで客単価っていう部分で攻めていくのか。いや、そうじゃないんだと、糸魚川に宿泊してくれるもう企画力、おもしろい宿泊サービスをしていくんだというところに行くのか。もしくは、この地域の、地元の人たちの利用者を増幅させていくほうに力を入れていくのか、何かそういった何て言うんですかね、目指すものというか、方向性みたいなものがあれば教えていただきたいんですが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

○能生事務所長（原 郁夫君）

これは宿泊施設でありますので、やっぱり交流人口の拡大というのが、最大の期待される場所なのかなということで、市外、県外からおいでになるお客様をふやしたいというのが、まずあります。

それと公営の宿でございますので、赤字が出た場合には市の税金をもってあてがうということで、これはもう完全に市民に対して迷惑をかけている状態でありまして、何とか収益を上げて将来的な修繕ですとか、いろんな戦略をとるための出費を、自分の稼いだものでやっていけるようにもっ

ていきたいということで支配人とは相談しておりまして、何とか自立をして回転していけるような施設になってもらいたいということで、それを2年後の指定管理につなげていければいいのかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

じゃあ次の③のリニューアルオープン時に、泊まって楽しい企画はあるかという質問なんですが、せっかくリニューアルするときには宿泊、満員御礼が出るぐらいの人気の企画があつてしかるべきと思っているんですが、その辺を紹介できればしていただきたいと思いますが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

○能生事務所長（原 郁夫君）

ただいま検討中ということで、必ず何かやります。今、検討中ということでございますので、また乞うご期待ということで、よろしく申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

大いにご期待しますので、ぜひ成果をもって応えていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

次に、指定管理者制度への移行についてであります。

ちょっとざっくりとした聞き方で申しわけなかったんですが、黒字になった場合は単純に経営がいいわけですね。それをあえて指定管理に移すのか。赤字になった場合、今度は赤字になるような経営状態なわけですから、それを手を挙げてやろうという人が、そんな施設、そんな状況でやるのかっていう単純な矛盾を覚えるわけですね。その辺の考え方、対応の仕方、どのようにされるのかお伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えします。

いろいろと権現荘のことに対しましては、議員の皆様方からご意見を賜ってまいっております。そういう中で権現荘の利用の仕方、活用の仕方の中で、リニューアルをさせていただいて指定管理にもっていくという形でございまして、やはり我々は、つくったものにどうしても指定管理の額というのはなかなかわからないわけでございますので、2年間の経営をする中で指定管理の額を決定していきたいと思つとるわけでありまして、でありますから、我々といたしましては非常に収益性の

高い施設として指定管理の手を挙げていただきたいと思いますので、なるべくそういうふうにもって行って、市の財政に対しましてもプラスにもっていきたいわけでございます。そういう中で、今、進めさせてもらっておるリニューアルと捉えておるわけでございますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

いい場合のパターンでご質問しますが、黒字になってスタッフなりメンバーが、そのスタッフで頑張って売り上げがよくなって黒字になってるという場合に、指定管理者がどんと入ってきたときに、いや、私のスタッフでやるんだということも考えられるわけですよね。その辺の取り次ぎとか条件とか、その辺はどのように考えてられますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

指定管理者の条件につきましては、今後、2年間の経営状況等を見ながら条件を決めていきたいと思っております。その中におきましては、委員のほうからお話のありました、現在、勤めておられる方の雇用の状況についても、ご本人の意向等も聞きながら条件にどのように含められるか、今後、検討していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

ちょっと忠告めいたことになりましたけども、やっぱりぶれない姿勢で臨んでいかないと、周りで指定管理に手を挙げようと思ってる方もおられると思うんですよね。また逆に、市直営ならではのおもしろさとか魅力とかというものが成功すれば、それはそれでいいんじゃないかっていうまた意見も出るかと思うんで、その辺、いろんなパターンを今言いました。黒字のパターン、赤字のパターン、またはその経営状況の度合いとかを検討中とよく言われるんですけど、あんまり僕、時間がないと思っておりますので、その辺をしっかりと固めた中で、この事業を進めていただきたいと思いますので、最後に、この回答についていかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常に心強いご意見をいただいたなと思っております。今いただいた意見というのは前向きに捉

えさせていただきます、この権現荘の運営に当たっていきたいと思います。

ありがとうございました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

続きまして大きな3番、鉄道会社と協力した観光振興と地域づくりについてであります。

地域づくりのための無人駅の活用ということではありますが、地域の駅の魅力づくりをすることで交流人口の拡大や、地域の活性化を図る取り組みをしてはどうかという提案でございます。鉄道の営業の邪魔にならない範囲であります。企画の募集を募ったり、また募集を募ることで、その上でもう鉄道会社とも、ともに利用拡大を図るような研究をし、1つ1つ丁寧につくり上げていくようなプランというのが私は必要だと思うんですが、そのような考え方はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常に私もそういった意見に対しては賛成なんです。しかし、これにつきましては、やはり先ほども申しましたように、地域の皆様方がどのように駅を思っておられるか。これはえちごトキめき鉄道もJRも同じだと思うわけですが、やはり地域の人たちが、マイレール意識をどれぐらい持っているかによって変わってくるんじゃないかな。ただ単に駅舎だけをそういう形で残しても魂が入らないのは、やはりいつまでたっても活用できなくて、外見はよくても難しい維持管理になっていくんでないかなと。やはり地域の人たちが愛着と、そしてそこに対しての思い入れがどれぐらいによるかによっては、我々行政もやはり同じぐらいの気持ちで接していかないかんだろうと。思っております。でありますから、マイレール意識を地域の人たち、また、市民の皆様がどれぐらい持つかというところは、大きな私は課題だと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

確かに地域の方を巻き込んでの駅づくりとなると、今、市長がおっしゃられるとおりに思います。やはり何事にも成功事例といいますか、こうしたらこうなるんだというものがやっぱり1つ2つ見えると、また皆さんもやる気が起きるんじゃないかと。

そういう意味で、今は地域づくりの面でありましたけども、観光振興という部分で、どこかの地域で駅バルとかとあって、駅をもう立ち飲みレストランとか、一杯飲んだりとか、ワンプレートのお料理が出てくるみたいなことを取り組んでるところもございます。今、東京の銀座とかでは何か俺の店ということで、俺のシリーズで、俺のイタリアンとか、俺のフレンチとか割烹とか、焼き肉、焼きそばとかいろいろあるんですけども、今度、俺の駅みたいな形で、それはレストランでなくて

もいいんですが、カフェでも何でもいいんですが、さっき言ったマイレール意識で、俺の駅ということで何か展示をして、自分で手づくりしたものを展示して売るとか、地域にあるたくさんとれた野菜での加工品を並べるとか、何かそういったことを小さいことからでもいいんで、始めていくような取り組みというのは私は必要かと思うんで、そういった話が鉄道会社と行政、また地域の方と、また商店街の方たちとも連携をとって、ちょっと駅にこういうものを置いてみようじゃないかとか、そういう話を行政がちょっとリードしていただければと思うんですが、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

これはJRは、もうそういうことに対しては、ちょっと前はだめだったんですが、最近はどう非常にそういったことに対しては積極的に捉えて、対応していきたいという考えは持っておられますので、私といたしましても市民の皆様に、もしそういうことがあるなら呼びかけていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

続きまして、（2）番の子供に喜ばれる糸魚川駅の構築についてであります。

ここからは、ほとんど提言みたいになるので、なかなか回答を聞くのはちょっと難しいかと思うんですが、ジオステーションジオパルには、鉄道模型やプラレールがあって、そういうものを考えると、今後、おもちゃメーカーと連携して、おもちゃの見本市の開催だとか、鉄道にこだわらず日本のおもちゃの紹介コーナーとかを定期的開催していってもらって、本当に子供のための駅なんだぐらい、日本一の子どもづくりのまちづくりですから、そういったところもちょっと取り組んでいただきたいと思うんですが、その辺の考えはいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

今回、その1つの核としてタカラトミー社のプラレールという形で、提携をさせていただきました。これも官とのこういう地域を区切ったり、そこに施設を設けてという提携は、なかなかタカラトミー社としてもないということで、それはそれとして、そこを伸ばしていきながら、じゃあどの部分で。何でもかんでもというわけにはいきませんが、今のところはこのプラレールを核として、そういう形で進めていきたいと思っております。

○議長（樋口英一君）

質問の途中ですけれども、昼食時限のため暫時休憩いたします。13時まで。

〈午前 11 時 59 分 休憩〉

〈午後 1 時 00 分 開議〉

○議長（樋口英一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

午前中に引き続き一般質問を行います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6 番（保坂 悟君）

済みません。ちょっと時間の関係で、順番を変えて質問をさせていただきます。大きい番号の4番の早急に取り組むべき課題についてであります。もし時間が余れば、ちょっとまた駅のほうに戻りたいと思いますので、よろしく願いいたします。

北陸新幹線の整備工事に伴うテレビの電波障害についてであります。電波障害の補償でいろいろネットで調べますと、20年という言葉がよく出てきておりました。誰がどういうふうに計算した20年かはちょっとわかりませんが、これまで自分で取りつけたアンテナで無料で受信できたものが、新幹線の高架橋のこの建設によってテレビが見られない状態になってしまったわけですから、そこに住む限りは、やっぱり補償すべきという考え方なんですけども、この20年というこの縛りは、どのように解釈したらよろしいのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原総務課長。〔総務課長 田原秀夫君登壇〕

○総務課長（田原秀夫君）

お答えいたします。

今、市が設置をしております光ケーブルの使用料についての20年ということですが、この20年の規定については国の補償基準で、中央用地対策連絡協議会というところが定めておりますテレビの電波受信障害、そういうものの申し合わせという規定がございまして、その規定に沿って20年間分を一括金銭渡しきりという方法で補償をするという説明でございます。

この20年につきましては、この光ケーブルの使用料だけではなくて、市も補償の対象者でありまして、そちらも何度か交渉を行いましたが、この国の基準については変えることができないということで説明を受けております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6 番（保坂 悟君）

国の基準だからって、そういうふうに言われてしまうと、なかなか言いづらい面もあるんですけ

ど、ちょっとなかなか私自身も納得いかないんですよね。多分、説明を受けた方も100%理解してるというふうには、ちょっと理解しにくいんです。

この電波障害の補償の説明会が11月21日とか、各地でも行われているんでしょうけども、私が聞いた話では、その説明会に市の職員やJRの職員が来てなかったというふうに伺っております。北陸新幹線開業という大きなプロジェクトの影の部分として、それに対して下請業者に何か丸投げした形で説明を行っていて、補償の内容について突っ込んだやりとりがしたいんだけど、何か下請業者では答えられないといった、そういう何か経過があったそうなんです。そういう説明会に市の職員がなぜ行かないのか、JRの職員がなぜ来ないのかっていう、その辺の考え方を教えていただきたいんですけども。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

確かに9地区において説明会がなされまして、今言ったような形でJRではなくて、これは新幹線の鉄道・運輸機構になりますけど、鉄道・運輸機構が当然、事業主体となりますが、電波障害の補償については、ある会社に委託をしまして、そこが今、主体となって説明会を行っているということでありまして、主体的には鉄道・運輸機構が出向くものでありますが、その中でそういう意見もお聞きした中では、市も出た地区もございまして、そのまま出なくて済んだ地区もありますので、その辺についてはもう一度、今後の中であった場合は、私どものほうから鉄道・運輸機構に働きかけて、お互いに出るというような形をとっていきたいと思っておりますが、そういう事実があったことは確かでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

やっぱり市民のいわゆるお困り事ですよね。自分の言うことは関係なく計画が立てられて、高架橋ができて、そのあげくの果てに電波障害で見られなくなったと。そういうことに対して市民がどういうふうに思ったり、どういうふうに考えたりするかというのは、やっぱり糸魚川市としても見るべき、知っていくべき説明会だと思うんですよね。だからそれについては、ぜひ出てもらいたいですし、また何て言えばいいんですかね、この新幹線開業してから24時間で見れば、また電波障害と、今のわかり得る今の状態の電波障害というのは、いろいろまたこれから調査もあるんでしょうけども、今後20年間、また、それ以降についても、やっぱり長期的に見ていかなきゃいけない部分だと思うんですよね、その電波障害については。市は全く関係ないという捉え方でいいんですかね、その辺、どこにこの責任を求めていけばいいのかというのを、ちょっと教えてもらいたいですけど。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

一般的な補償の考え方には、確かにおっしゃることは理解できますが、これは一律の公共補償という決まりの中で、ある程度、期限を区切ってやるということもあるということで、これに対して私どもも補償される立場では逆の意見、これはこういう区切り方ではという話もさせていただいておりますが、そこは今のところ、こういう国の基準ということになっておりますし、また、電波障害については20年の補償であります。例えば自分のアンテナを立てましても、アンテナに対して例えばいずれはまた取りかえる時期もありますので、そういうものも含めてということでありませぬし、また、市の光ケーブルを利用した電波障害については、これは新幹線に対する補償の中でも、これは電波が不感地域という形の中で市の光ケーブルで対応していくというところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

私もちょっと質問の仕方がよくないのかもしれませんが、要は、今この現状の電波障害、また20年間の間、ケーブルなら見れますわね、それ自体は。だけどその終わった後をケーブルの使用料をずっと支払い続けていくということに対して、何て言うんですかね、要はその費用が500円で据え置いていけば年間6千円ですか、そういう額の6千円に対して、さっきもアンテナを取りつける代金と言いましたけども、それと本当に比べてその値段になるのかという話もありますし、先のことはようわからないわけですね、当然、そこに住み続けるかどうかも含めて。

要は、ずっと20年、またそれ以降も、そういうものに対して相談とか、そういう何て言うんですかね、苦情受付窓口といいますか、そういった体制が鉄道・運輸機構であるとか市であるとか、そういう相談をするコーナーというか、そういうものを今後どういうふうにしていくのか、その辺をお伺いしたいんです。要は、困ったときにどこに相談していくのかという。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

○副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

今回の電波障害の原因者は、新幹線のほうの鉄道・運輸機構であります。したがって、原因者はそうなんですけども、その電波障害を解消するための方策として、市のケーブルテレビのほうを使うということでもあります。その辺は、基本的にはそうだということでもあります。

それから20年というのは、公共補償の中で永久補償の場合は20年ということでもあります。と申しますのは、20年分の補償をもらって預金をしますと利子で、通常ですと民法上5%ぐらいの利子になるわけなんですけども、その利息によって毎年、支払いができるということでもあります。計算しますと、17%とかそういう数字になるんですけども、20年分を払うと、それによってずっと永久補償ができますというのが公共補償の考え方です。したがって、今回もその公共補償の仕方によって20年分を一括支払いをするということでもあります。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

非常にわかりやすいですね。その利息分で、じゃあ払いが可能になると。だったらその説明の部分で、私のところに相談に来た、多分、理解されてないと思うんですよね。であるならば、やはりそういう数字も明確に出していただいて、もう絶対大丈夫なんだと言ってほしいんですけど、やってくださいますかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

先ほど都市整備課長が話しましたように、説明会に鉄道・運輸機構の職員も市の職員も出なかった地区もあったということで、私のところにもある区長から、そのようなお話を聞きました。それはやっぱり出るべきであったというふうに思っております。

その中で、今、保坂議員が言われたように十分理解いただけないところについては、改めて説明をするという必要があると思っておりますので、そのようなフォローをしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

ぜひお願いいたします。

せっかく新幹線開業で、すごくいいムードであるわけですから、そういったトラブルがないようにぜひお願いいたします。

ちょっとまた飛ばしますけども、最後のこの市営住宅の安全対策のほうで、ちょっと管理について質問させてください。

はっきり場所も言っていないかと思うんですが、これ私が聞いたのは須沢の市営住宅であります。入居契約がされているにもかかわらず、ほとんど市営住宅で何か生活をしていないようなケースがあるのか。また、入居していた方が退去後、何か自転車置き場とかに冷蔵庫とか洗濯機とか、大型の荷物を置いたままにしているケースというのが本当にあるのかどうか、そのまず事実関係を教えてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

ごみの話は承知しておりませんが、入居のケースとしては、入居をしてそのまま滞納して、そのまま行方をくらましたという例はございます。また、そのまま、傷めたままという例もございます

が、これはそれ相応の手続をしておりますが、基本的に、最後になって行方不明というような状況もございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

入居契約を結んであって、要はお金は当然払っていただいている、でも、その部屋で住んでないというケースはありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

基本的には、月の一定期間以上が住んでないということであれば、それは基本的に住む家に困らないということで、本当は退去していただくということではありますが、それもケース・バイ・ケースで、そういうケースで、今そういう退去を求めているケースもございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

人それぞれいろんなご事情というのはあるかと思うんですが、あんまり空き家状態みたいなままであると、やっぱり同じところに住んでいる人にとしてみると、すごく不安にも思いますし、ましてやそこがだんだん荒れてくるような様子があると、やっぱり心配になりますので、そういったところの指導の強化をぜひお願いしたいと思います。

次に、ここも同じ場所ですけども、3階の天窓のところ鉄の骨材が出ていて、ちょうど本会議初日の大雨のときに行ってみたんですけども、物すごく雨漏りがひどいんですね。玄関開けたすぐそこに、ジャージャージャー滴が垂れる。それがまた1階のほうに垂れて行って流れしみ出てる。要は、これから今度、寒くなったりすると凍結とかも考えられますし、建物の屋内というかのが、そういうぬれた状態になっているものですから、あれを見て何もしないというのは、ちょっとどうかなと思ったんですが、その辺の考えはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

個々の細かい件まで承知してない部分もありますが、要するに住んでる方が不自由なことに対しては、素早い修繕を指導していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

素早い修繕、よろしくお願ひします。本当にひどいですよ、さびぐあいから水の滴り方からも。

あともう1つ、玄関照明についてであります。以前、担当課のほうにもお願ひに上がったんですが、この施設の南側の玄関には、ちょうど入り口にスイッチがあるんですけども、この反対側、北側のほうの玄関入り口というのはこのスイッチがなくて、奥まで入って行って電気を何かつけるみたいな形になってまして、非常に北口から入るときに高齢者だとか、お子さんを抱える方が入るときに、暗くなると足元が見えないんですね。さらに悪いことには、そこの玄関に入っていくと段差があるんですね、中央の部分に。だからそういう部分があるんで、ぜひここはスイッチと手前の照明が必要かと思うんですが、その辺の考えはいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

私が把握しているその件につきましては、裏口のほうは、これは建てられたときから、正面は当然、照明施設がありますが、裏口のほうは照明施設というのはもともとない形の中で、公園側の防犯灯がそのかわりではありませんけど、あったということで、それにつきましては、お話をいただいた中で防犯灯のランプが切れてるということで、つけるようにということで指示はしたんですけど、防犯灯の照明柱そのものが腐食をしております、そういう形でいましばらく時間がかかってくるんですけど、今、把握している時点では照明柱を設置し直して、また明かりもつけて、これまでどおりといいますか、従来どおりのある程度の形になったということでございます。

また、根本的に例えばないところに新しいものをつけるには、これはまた管理人なり、それからお住まいの皆さんと調整した中で本当にそれが必要であれば、またそういう形での手続をとってまいります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

済みません。私もきちんとした確認をとらなくて申しわけなかったんですが、少なくともそこに住んでおられる方から、こういう声が上がった上で私も現場を見てきております。今、ご回答いただいたとおり、ちょっとそこに住んでおられる方と、そういう施設についての話し合いを持っていたら、改善できるところは計画的に改善していただきたいですし、また、予算措置が必要であれば、また庁内でその辺も検討していただきたいことを要望しておきます。よろしくお願ひいたします。

これで、またちょっと駅のほうに戻らせていただきます。

糸魚川駅の構内、子供に喜ばれる駅の構築なんですけども、できましたらトリックアートとかを駅の周りにたくさんつくっていただいて、そこで記念写真とかいろんなおもしろい写真を撮ってもらって、そこで写真コンクールとか、そういう大賞をあげるとか、何かそういう遊び心を持った駅とかをぜひつくっていただきたいと思うんですが、そのトリックアートとかって、ふんだんにつく

ることはできないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

トリックアートにつきましては、今、駅1階で整備するジオパルの中にヒスイ峡のトリックアートということで整備する予定にしております。そのほかイベント等、今、スケジュールを調整しておりますけれども、やはり子供向けのイベントということで紙芝居やボルダリング講座、子供向けの英会話講座、石の標本づくりや保育園児の絵画展、そういったものも日が変わりや週が変わりで、いろんな企画をしたいというふうに思ってますし、また、季節に合わせて七夕とか夏休み、ハロウィンとかクリスマス、お正月、そういうものも取り組む中で、子供や大人が一緒になって楽しめるような駅1階にしていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

ぜひいろんな子供向けの取り組みをしていただきたいと思います。

1つ提案なんですけど、糸魚川はフォッサマグナのまちとして、できれば東西を分けているわけなんで、全国のゆるキャラとか、ゆるキャラの自治体の特産品だとかお国自慢の対決を、この糸魚川駅で何か週末とか定期的に行っていただければ、それも動画を配信するとか行っていただきたいということを要望して質問を終わります。

○議長（樋口英一君）

以上で、保坂議員の質問が終わりました。

次に、吉川慶一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉川議員。〔4番 吉川慶一君登壇〕

○4番（吉川慶一君）

ご苦労さまです。ひめかわの会の吉川慶一でございます。よろしくお願いたします。

1、糸魚川市農政改革についてお伺いたします。

2014年産コシヒカリの卸売り価格が最安値となり、米作農家から経営が大変という声を聞く。上越地方の作柄は「やや良」であるが、米の直接支払交付金の交付単価が半額となり、また仮渡金が減額になった。この農政改革では農家の経営を圧迫する懸念があると思う。そこで以下、お伺いたします。

(1) 市内農業の現状について。

- ① 米農家の所得の現状と経過。
- ② 農業の担い手の現況と育成。
- ③ 耕作地と耕作放棄地の現状と経過。

- ④ 農地を貸地とした活用計画。
- ⑤ 糸魚川市と農地中間管理機構との連携。

(2) 8月に発生した、稲白穂の被害と今後の対策について。

2 防災ハザードマップについて。

日本海で発生が予想される津波高について、県と国が発表した数値の違いをどのようにまとめ、市民にどのように説明するのかお伺いします。

- (1) ハザードマップはいつ見直しをしますか。
- (2) 糸魚川市のハザードマップでは1.9～3.8mの波高でしたが、今回の国のデータでは3～12mである。市内の状況では平地に住宅が密集しており、住宅等に浸水が想定される。避難対策についてどのような検討をしていますか。
- (3) 地震発生から、津波到達まで2～3分以内と報道されていましたが、どの場所と想定しますか。
- (4) 津波の対応について、今後、県による調査の見直しが出ると、避難経路を含めた計画の見直しが必要になります。市民への説明をいつごろと考えていますか。

3、公共施設の更新計画について。

建設されてから30年以上経過している公共施設の更新計画と、財源確保をどのように進めていきますか。

現在の箱物施設を維持し続け、市民の豊かさ、便利さを重視していくことは、結果を先送りしてしまい、次の世代の大きな負担になると思いますが、お考えをお伺いします。

また、道路、橋梁、トンネル等が多くあり、国では強靱化計画を進めています。当市の施策をお伺いします。

4、市内でのレジオネラ症の発症について。

10月9日の新聞報道で、糸魚川地域振興局管内において男性がレジオネラ症を発症したと発表された。このことを受け、行政としての対応をお伺いします。

1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

吉川議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点の1つ目につきましては、米の直接支払交付金が半額、仮渡金も減額となっており、大幅な減収が見込まれるものと懸念いたしております。

2つ目につきましては、平成26年3月現在で203形態となっており、今後も育成に努めてまいります。

3つ目につきましては、平成22年では416ヘクタールとなっており、年々、増加傾向にあります。

4つ目につきましては、JAひすいが貸し農地を行っており、8名の方が利用いたしております。

5つ目につきましては、農地中間管理機構の事務の一部を市、JAひすい、土地改良区で業務委

託し、連携をいたしております。

2点目につきましては、被害面積は2,860アールとなっております。

2番目の1点目につきましては、平成28年度を予定いたしております。

2点目につきましては、各地区ごとに避難場所、避難経路を検討してもらっており、津波避難ビルの指定等も進めております。

3点目につきましては、震源の想定が陸地に近い位置となったことから到達時間が早くなると考えておりますが、特定の地点は示されておりません。

4点目につきましては、これまでの避難計画に修正が必要となる地域が把握でき次第、地区に説明をまいります。

3番目につきましては、平成27年度に公共施設等総合管理計画を策定すべく基礎調査を開始いたしております。

4番目につきましては、今回の発症患者が健康づくりセンターはびねすを利用されたとの情報により、保健所で臨時検査を実施した結果、レジオネラ症の原因施設として特定されなかったとの報告をいただいております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もごございますので、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

2回目の質問をさせていただきます。

時間の関係上、ちょっと前後させていただきますが、4番目の市内のレジオネラ症について伺いいたします。

この報告をいつ受けましたか。保健所からいつ受けましたか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

今回、市長答弁でお話しましたように当課が管理をしておりますはびねすを、発症者の方がご利用なさったというような経過をお聞きしまして、10月3日に保健所のほうから関係データ等の提供等の依頼を受けております。その時点で把握をいたしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

10月3日に保健所から受けたということですが、詳細情報をどの程度把握されましたか、伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

感染症の関係につきましては、個人の特定とかいろいろな部分の関係があるものですから、詳細については説明は受けておりません。先ほど申し上げましたように、はびねすを利用された経過があるという報告の中で、資料提供を求められたものでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

はびねすといいますか、はびねすかどうかわかりませんが、新聞報道ではそこまでいってなかったと思うんですよ。もうちょっとお伺いします。レジオネラ症というのは、潜伏期間というのはどれぐらいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

潜伏期間につきましては、レジオネラ菌肺炎とポンティアック熱というような二通りがあるわけですが、レジオネラ菌の肺炎のほうにつきましては、2日から10日の潜伏期間を経て発症というような形になっております。もう1例のほうのポンティアック熱につきましては、1日から2日というような解説になっておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

実は私も若干、勉強させていただいたんですが、このレジオネラ菌と申すのは自然界の土壌にも生息したり、他の細菌と一緒に増殖すると見聞でもあります。私は実はAの男性からお聞きしたところ、市内の浴場で入浴し、2週間後に3日間の意識不明になったと、こういう現況でありました。男性のいわく、9月15日にH社に入浴、10月1日に体調が急変し自宅で倒れたと。その後、Y医院にかかり、糸魚川総合病院に転院し検査入院し、約10日間入院したと、こうなっておるんですが、いろいろ保健所さんにもお聞きしたんですが、男性はふだんは自宅で入浴するが、そのときは風呂のリフォームで入浴できず、妻と2人で当浴場に出向いたと、こう本人の証言がありました。

先ほど言いましたように、そことは私、限定しませんが、これを聞いたときに行政として市民が報告後、当然、糸魚川市の指定管理がいろいろありますが、それに対してどんな取り扱いをされましたか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

先ほどもお答えいたしましたように、どこどこの誰がおなりになったという部分につきましては、私ども情報はいただいております。また、問い合わせしてもお答えをいただけない状況でございますので、その方との接触については、できかねる状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

いろんなことで個人的なプライバシーもあるから、それは把握ができなかったということもあるかと思いますが、しかし、糸魚川市の管理している施設があるかと思いますが。そういう施設に対して、どんな注意喚起をされましたか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

糸魚川市には糸魚川市が運営している入浴施設が幾つかあるわけでございますけれども、過去にもそれぞれの入浴施設からレジオネラ菌が出たというような案件もありまして、議会へのお話もしております。そういう施設については定期的な検査を実施し、そのような状況が発生していないというのを確認をいたしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

おかげさまで市民の方は回復されてよかったと、大変、私自身喜んでおるんですが、もしという話は、これは無限になるんですが、大変だなと。3日間も意識不明、10日間も入院されておったと、これはちょっとやっぱりある程度の対策は必要性があるんじゃないかなと、こう思います。

それで各浴場を若干見せてもらいましたが、いろんな市民の方にもお伺いいたしました。こうするのは、どこから発生するのかということがありますので、ぜひいま一度、行政がしっかりその施設を、一例でございますが、構造的な問題、並びに清掃等に十分注意を図っていただいて、当施設からそういう発生しないような注意喚起をしていただきたいと、こう思うんですが、それについてお伺いいたしますが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

先ほども申し上げましたけれども、当市が運営しているそのような施設からは、発生しないという事は徹底いたしておりますし、今後もそのように努めてまいります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

ぜひお願いいたします。

見えない菌でございますので、そういうことがないようにして信用だけは十分とっていただきたいとお願ひ申し上げます。

続きまして、戻させていただきます。じゃあ農業の件を若干お伺ひいたします。

先ほど市長からも答弁いただいたんですが、2回目の質問をさせていただきます。

先ほど冒頭で、米農家の所得が相当減って、農家の人は大変だ、大変だと言っております。糸魚川市の農家を見ても、10年前から見ると約半数の人が、要するに65歳以上の人が頑張ってきている。今後、このままの状態でも農家さん頑張っていて、やはり年、資機材にやはり問題が出てきます。これについて市としてどの程度、支援をしてもらえるのか、いま一度お伺ひしたいと思ひます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

お答えいたします。

米価が昨年に比べまして1,700円、1俵当たり価格が下がっておりますし、交付金も1万5,000円から7,500円の半減になっておりまして、非常に農家の収入には大きな影響が出ているというふうに認識をしております。

また今、議員のほうからお話がありましたように中山間地域でありますので、農家の皆さんの高齢化も非常に進んできております。それから農政改革も、今後5年間を見通した農政改革が進められておるわけでありまして、認定農業者のほうにシフトされるような、そんな考え方もございます。ですので、当市が抱えます中山間地域での農業は、非常に厳しいものがあるかと思ひますけれども、来年から始まります第4期の中山間地域の直払いにつきましても、100分の1までの傾斜地を取り組むように市のほうとしても考えておりますし、国が用意しておりますいろんな支援制度を、地域がフルに活用できるように我々も説明会をもっております。地域の方にお願ひしたいのは、やはり地域での話し合いをしっかりといただいて、地域農業をみんなで手を組んで取り組んでいただくということを、今、一生懸命に説明会等でお話をさせてもらっているという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

ぜひ有効なご指導をいただきたいと、こう思います。

それから、②にあります農業の担い手の件ですが、非常に担い手にいろいろ現況という、担い手に問題というか、心配しとるわけでございます。先ほど言いましたように高齢化がどんどん進む、じゃあ若い人がどうして続いていただけるんか、この農業の担い手、若者が農業に魅力を感じることを、この現状について何かうまい方策はお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

農業の担い手を確保することは、非常に今、重要な課題だと思っています。担い手には、私は2種類の方を担い手として必要でないかと思っております。

1つは専業の農家として、今後、糸魚川の農業の中心となっていただけるような担い手の方。それは市内におられますし、また、市外から呼び込むということも必要でなかろうかと思っております。それから中山間地域が抱えます多面的機能、また、集落の存続ということを考えますと、農的な暮らしをしながら農業を営むという方々を、市外から呼び込むということも必要でないかと思っております。

今、国の農政改革で進めておられます産業としての政策と地域としての政策、この2面でもって担い手を確保していく必要があるんじゃないかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

ぜひそれを進めてリーダーシップをとっていただいて、糸魚川市の農業を若者が継続できるような、ひとつご指導をいただきたいと、私とすればできれば、今後お聞きするんですが、農業の田んぼの有効利用、田畑を有効利用できる方策をいま一度考えなければならぬと、こう思っておりますので、ぜひご指導をお願いしたいと、こう思います。

それから3番目の、先ほど市長からも答弁いただいたように、耕作放棄地がまだまだ問題があるかと思っております。この耕作放棄地、今後、まだどれぐらい見込みというか予測があるかどうか。いや、もう出るだけ出たということでしょうか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

中山間地域直払の第3ステージが今年度で終わります。来年度から新たな第4ステージに入るわけでありまして、第3ステージから第4ステージに、全ての協定区域が継続してつながっていただければいいわけでありまして、状況をお聞きしますと、5年間というのはなかなか厳しい

よねという声も聞いておるわけでありまして、うちの職員のほうがそういう地域に入りまして、できるだけ継続できるように、今、地区の懇談会をさせてもらってるところであります。

それから地区農業の懇談会を春と秋と2回、26会場で説明会もさせてもらってきております。そういう中でも、そのような耕作放棄地につながらないように指導しておりますし、また、例えばお米ができなくなったような水田につきましては、今年度からヨモギの栽培の実証実験に入っております。新たな園芸作物というよりも、昔から地元のほうで取り入れられてきたようなものをつくる中で、高齢化している農業のこれからの振興も、今、実験に取り組んでいるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

農業の経営を進めるには、耕作放棄地を有効利用してやっていくということは理想等でございますが、今、先ほど一例としてヨモギをつくってみると。そのほかに例えば集積したり集約したりして、ほかに何かまだやってみたらどうかというものがあるでしょうか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

今年度からJA、農協のほうでは、水耕栽培と言いまして苗をつくり終わった後のハウスを利用して、水液土耕でもって野菜を栽培するという実験にも取り組んでいただいております。越の丸ナスでありましたりパプリカでありましたり、そのような実験結果が、また農家の方にも非常に興味を持っていただいているというふうなお話も聞いておりますので、そのような活用も進めていきたいと思っておりますし、耕作放棄地におきましては今言ったようなヨモギを、とりあえず中心としてやっていきたいということで今考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

多角経営じゃないんですが、多角的に大いに利用できるようなもの、また、農家に取り組めるものをぜひご指導いただきたいと、こう思います。

それと総括的なお願いでございますが、やはり先ほどから何度も繰り返していると思うんですが、担い手の育成、それから定年後の就農者、それから農業所得の安定、これを十分ひとつお考えいただいて、農家、糸魚川の米づくりに反映できるようお願いしたいと、こう思っておりますので、よろしく申し上げます。

続きまして、8月に発生しました稲穂、白穂の件でお伺いいたします。

最近に例のない被害が出ました。これについて先ほど市長からも聞いたんですが、地区別でどれぐらい被害がございまして、それに対して市はどのようなご指導をしたのかお伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

白穂が発生しまして速やかに発生した地域、及び発生しなかった農家の皆さんにも注意喚起のチラシを配らせていただきました。

それから今現在ですけれども、全県で1万5,600ヘクタールぐらいの被害が出て、共済の申請をしてるというふうにお聞きしております。当市におきましては、28.6ヘクタールの共済申請がございまして被害額では650万円ほど、そのうち共済金のほうで200万円ほどの補てんがされる見込みだというふうに、今のところ聞いておるところであります。地区別の被害については、ちょっと手持ち資料がございませんので、ご容赦いただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

じゃあ差額は約400万円ぐらい出ておるわけです。これについて農家の方は減収、減額と、こう解釈してよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

共済のほうにおきましては、8割を補てんするという考え方で共済制度が組み立てられておりますので、今、そちらのほうで補てんをしていただくということで考えております。

また、米の下落、交付金の半減化等で農家さんの収入は非常に打撃を受けておるわけでありまして、県のほうにおきましても特別融資資金のほうの制度も組み立てられておまして、当市のほうといたしましても、その融資制度を取り入れていきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

大変な被害だなと、こう思っておりますが、防げるところは防いでも、やはり自然災害に勝てないところが辛いところでございます。ぜひともこの農家に対して十分ご指導いただき、補てんできるところはぜひ補てんいただきたいと、こう思いますので、よろしく願います。

部分的な被害であったわけでありまして、この地区の人たちは大変お気の毒なことであったなと、こう私ながら残念に思っておる次第です。今後、こういう被害がないことはないわけでございますので、今後のこういう対策に対して十分配慮を、また、ご検討いただきたいと、こう思います。

全体を通して若干お話いたしますが、先ほども農政改革はあるんですが、今後、農業経営を進めようとする若者に対して、指導、理解、促進、農地を守る農政改革の指導を十分行政を中心とし、また、県からご指導いただいて指導をお願いしたいと、こう思います。

それからもう1点、糸魚川市はやはり兼業農家が主でありました。この兼業農家がだんだん逆にまた少なくなってきたのがあります。やはり兼業農家が少なくなると集落が維持できなくなるのが現況でないかなと、私はこう思っております。それに対して兼業農家を逆に育成する必要があるかと思っております。やはり田畑を守る、それに伴う農政、田畑を守っていくためにはぜひ兼業農家を、私は必要性があるかと思っております。そこで市として、このような考えを進めることはないでしょうか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

兼業農家の役割は非常に大きいものがあると思っております。

春の地域への懇談会、秋の懇談会を通しまして、各地区のほうからもいろんなご意見をいただいております。特に機械の更新の際には、非常に多額の資金が要るので大変だとか、いろんなご意見も聞いております。そのようなものを聞きながら、今後の政策に反映していく必要があるんでないかなと思っております。

兼業農家さんの数も、今、ちょっと私、数を持っておりませんが、兼業農家、それから今回の米価の下落等で地区の皆さんのお考えを聞きますと、自分の代にはやれるんだけど後継者に今の農業を任すのは、なかなか大変だというふうな声も聞いております。そういうことも含めて、今後の政策を考えていく必要があるなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

ぜひ兼業農家を育成していただきたいと思っております。

私事でもありますが、私も若干、農業をやっておるんですが、やはり農業を続けるには大変な苦労を実はしております。やはり小さな農業はやめていただいて大農家、法人化と、こういういろんなことがあるんですが、やはり農地を守っていくためには、兼業農家の育成が大変大事でないかと、こう思っておりますので、ぜひそれらを、先ほどお聞きした件を強力に進めていただきたいと、よろしくお願いを申し上げます。

続きまして、防災ハザードマップについてお伺いいたします。

非常に今回、国と県の数値が大きく変わってきております。それについて若干、お伺いいたします。

津波ハザードマップは市民に配布され、また、市行政区において訓練されてきたが、国の発表で数値の変更が出ました。津波到達時間が早まっております。市内には低地が多くあり、避難路、避難場所の選定の見直しが必要に迫られていると思っております。まず、それらのお考えと、県の考えで対策の見直しは、一部では平成27年度としてるが、当市は海岸40キロを有しております。津波災害発生時には大きな被害と予想し、住民被害に不安が生じるので早急な対策が私は必要と見ております。それについて若干、お伺いします。

例を申し上げまして、青海地域では田海、須沢地区、それから糸魚川では寺島、横町、寺町、押上、大和川、浦本地区、それから能生では小泊、旧町内、やはり海拔が低いとこでございます。具体的に、この報道が出て、これらの行政区と連携がどこまで今現在、話し合いがされているのか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

質問は2点かなというふうに思っております。

まず、避難路、避難場所等の選定の考え方ということかなと思います。今回の発表は、新たな知見により当市に最も影響のある震源の想定がされたもので、国の概略計算により、津波到達時間が早くなることが見込まれるというものであります。

新潟県の詳細調査の結果を見ないと、断定的なことは言えないわけではありますが、避難路、それから避難場所につきましては、今まで地区の方々と検討をさせていただいております。さらにより早く、より高いところへ避難をするということで、避難ビルの追加指定なども含めまして検討を進めていきたいと考えております。

それから、地区との連携ということだと思います。

「広報いといがわ」や出前講座や地区の訪問懇談会、それから先ほども申し上げましたが防災リーダー研修などでも地区の皆さん、それから市民の皆さんへ情報の提供をさせていただいているところですが、地区の皆さんからもご相談を受けたり、こちらからも声がけなどをさせていただいたりしております。今後も継続した情報発信を行いまして、連携を図ってまいりたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

なかなか具体数値が出てこないのが対策が難しいと思いますが、やはり災害はいつ来るかわかりません。地震もそうですし、津波もそうなんですが、ぜひ早い行政、各地区の行政と十分密接な連携をとっていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

じゃあ続きまして、具体的にちょっとお伺いします。

当該地区に学校、保育園、公民館があるかと思いますが、その避難計画を、現状と見直す計画をお伺いすると、並びに特に海岸線の学校、政府の想定では最大12.1メートルと、こういう数値が出ております。中には第1波の到達は1分だと、こういう報道もあります。避難で追いつかれる危険があるかと思いますが、避難場所のマニュアルの見直しはどうか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

○教育次長（伊奈 晃君）

各学校でも津波等の避難経路、避難場所を検討して、各学校には計画があります。当然、今回の新たな発表に伴いまして、その見直しをこれからやっていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

これからやっていくのは、私もわかっております。しかし、時には1分も待てないと、こういうことがあろうかと思っておりますので、早急に急いで計画を練り直ししていただきたいと思っております。やはり現場主体でございますので、現場の状況をよく把握していただいて、見直しをお願いしたいと思います。やはりこの数値によって大きく変わる見直しもあろうかと思っておりますので、よろしくお願ひします。

続きまして、先ほどから数値にこだわっておるんですが、国と県の見直しが出るまでの間、これについてどの程度お考えなのか。若干の対策は考えておるのかどうか、これについてお伺ひします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、ハザードマップで、今までの情報の中で作成させていただいて、今進めておるわけですが、また新たな断層の想定をすところの地震ということで出てきたのが、まだ概略なものでございまして、今、それを詳細調査しておる段階でございますので、それが出ないうちにいろいろなことが、なかなかとれない状況であります。

そういう中で前回よりは平均的に大きいというのを、今、示されたわけでございますので、今以上に、やはり今のハザードマップの最大の活用、そしてまた今以上に、やはり早急な避難というのを頭に置くことしか今のとこはできないなと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

市長答弁いただきましてありがとうございます。じゃあよりベターな対策をひとつよろしくお願ひいたします。

じゃあ細かいことで若干お聞きします。今、災害情報が頻繁に出ております。情報の伝達で屋外広報でございますが、現在、聞きにくいとこの苦情、ここはやはり各地区から要望があろうかと思ひます。私がちょっと聞きますと、どうも屋外広報がまだ聞こえにくいところがあります。ぜひそういうところを見直しの計画に入っているのかどうか、お伺ひいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

防災行政無線の広報の聞き取りにくい地区があるということだと思います。各地区からもそのようなご要望をいただいております。現実的に、そういうことで聞き取りにくい地区が幾つかあるというところがございます。現在、進めております防災行政無線のデジタル化工事にあわせて、解消に努めてまいりたいと考えております。

ただ、屋外子局と言うんですけれども、これだけでは家の中、全てで聞き取れるということではありません。あわせて整備をいたしますデジタルの戸別受信機での対応を、さらに進めてまいりたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

じゃあ計画に合わせて、早急に進めていただきたいと思います。それにあわせて、今、安心メールも出ていると思います。安心メールを持ってない人、聞こえにくい人、いろいろあろうかと思えますので、有効利用していただいて、ぜひそれらもあわせて対策をお願いしたいと思います。

先ほどちょっと話し漏れで大変悪いんですが、海岸線に大収容施設があろうかと思えます。そういうこの事業体に避難計画をぜひご指導していただいて、避難計画もつくっていただきたいと、こう思いますので、よろしく願いいたします。

それから続きまして、さきの報道でもう1点だけお伺いしておきます。

防災グリーンツーリズムを進めると、糸魚川市であるんですが、防災グリーンツーリズム、これについて具体的にお伺いいたしますが。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

防災グリーンツーリズム、いわゆるジオパーク活動の1つでもあると思っております。自分の地域を知り防災に役立けると、そういったものをツアーの中に組み入れたいというふうに思っておりますし、例えば今、焼山の県のほうで整備している砂防公園、そういったものを見学する中で、防災教育に役立てるようなツアーにしたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

ありがとうございます。ぜひそれらもあわせて進めていただきたいと思います。

もう1点、お伺いします。

災害時の消防団員の活動に携帯電話を利用する方法、これをお考えないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

消防団員の携帯電話の携帯ということだと思いますけれども、現在ではそこは考えておりません。対応策といたしましては、消防救急無線のデジタル化ということも現在進めております。今年と来年度で整備するという予定でおります。その中で、消防団員の方々が携帯の無線機を持つというようなことで対応したいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

ある報道では、消防団の災害救助活動にスマホを利用すると、こういうのがあります。ぜひそれもお考えいただきたいと思います。要望しておきます。

時間がございませんので、次へ進めさせていただきます。

公共施設の更新計画についてお伺いいたします。先ほど市長さんからもお伺いいたしましたが、若干、触れさせていただきます。

公共施設の箱物、インフラプラント、いろいろあろうかと思いますが、公共施設がやはり耐久が出てまいります。地区には40年、50年とたっておるものもあります。これらをどんな方法、計画をどう進めておるのかお伺いいたします。更新計画を。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

先ほどもお答えいたしましたように、現在、来年度の策定に向けての基礎調査の開始段階であります。当市の公共施設は、粗々でありますけれども400近い公共施設があります。これら全てを対象にする今前提でありますけれども、その中には一部を除いて公共施設の更新、更新というのは、あくまでも統廃合も含めた再構築もありますけれども、そういった広い意味での更新でありますけれども、総合管理計画をつくっていきたいというふうに思っています。

これはつくり方とすれば、実際はこれからの作業になりますけれども、どうしても建設年次が違うことから耐用年数も当然ありますので、年次によっては非常に膨らんでしまう年度が出てきます。また、かといって更新の費用のかからない年も出てくるわけですが、この計画の趣旨からいきますと、やはり市の財政負担を考えますと、更新費用の平準化を図りたいということが1つと、当

市の場合、特にですけれども、1人当たりの平均というのは、公共施設の面積でいいますと3.4平米ぐらいでありますけれども、当市はその約2倍の面積があるということは公共施設、人口の割には数をはるかに多く持っているということになりますので、計画の中で公共施設の最適な配置、適切な公共施設の数にしていかなければならない。これは大きく2つの目的に沿って、来年度、計画を策定したいというふうに考えています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

吉川議員。

○4番（吉川慶一君）

企画課長からお話いただいたんですが、私からも提言させていただきたいと思います。

今後、介護、福祉、医療、どんどんお金がかかってくると思います。施設の一斉更新、改修にお金をかけなくてはいけない場合があるし、また、今ある箱物施設を全部維持しようとする、多額の予算が必要になってきます。やはり大きなあれで見直しをするときにきたのではないかなと、こう私は思っております。ぜひ財源等をいろいろ考えていただき、更新計画を早く出していただきたい、再配置計画の見直しもあわせてしていただきたいことを要望して終わります。

ありがとうございました。

○議長（樋口英一君）

以上で、吉川議員の質問が終わりました。

次に、伊藤文博議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。〔9番 伊藤文博君登壇〕

○9番（伊藤文博君）

清生クラブ、伊藤文博でございます。

1、本日は、政策企画推進基盤の整備・充実について質問いたします。合併10年を迎える任期後半へ向けての市長の考えを伺いたいと思います。

来年の3月で合併10年を迎えます。

市長は、合併時選挙で市長に当選し、新市糸魚川市を将来にわたって市民の安全・安心を確保できる安定した地方都市に作り上げるべく努力されてきました。

3月14日には北陸新幹線開通を控え、任期も後半を迎えようとしているなか、政策企画推進基盤整備・充実に関する市長の考えを伺います。

(1) 地方都市の改革は、市長の強いリーダーシップが必要であると考えます。10年間の市政をどう評価し、任期のこりの2年間にどのように向かわれる覚悟でしょうか。

(2) 一方、職員からのボトムアップも重要な要素であり、市長が職員をどう活かすかが重要であります。時には、職員からの耳の痛い忠告を受け入れる度量も必要となります。

① 制度的なことではなく、日常業務上のやり取りのなかで、職員からの日常的な提案を引き出す努力をしていますか。

② 職員を育て伸ばす、市長や幹部職員の対応となっていますか。

- ③ 「出来ない理由」をあげることが得意な、又はそういう性癖のある職員の教育はどのように行っていますか。
- (3) 組織と適正配置が重要であります。現在の組織の問題点と今後の対応をどのように考えていますか。
- (4) より良い企画立案・事業推進のために、各部、課の事業推進に関わる企画・予算要求とその査定について伺います。
- ① 企画財政課は、各部・課で行っている事業の全てを熟知して予算の査定、配分を行っていますか。
- ② 各部・課からの事業説明は、企画財政課に対してどのように行われ、査定はどのように行っていますか。
- ③ 部長・企画主幹は、どのように関わっていますか。年間どのような動きで翌年度の企画・予算要求につなげていますか。
- ④ 「日本一の子どもを育てる」「チーム糸魚川」など、その発想や方向性の良いものも、具体的な施策・予算の裏付けがないと「絵に描いた餅」となります。市長の肝いり政策として、企画立案・決裁予算付け・施策実行の段階は、どのように徹底されていますか。

1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、合併後の10年間で、旧市町の均衡と一体化を図るとともに、市民の安全・安心のために耐震改修など公共施設の改修事業を手がけてきました。

今後は合併後10年間を総括し、最重要課題である交流人口拡大や人口減少対策を重点に、より一層厳しくなる財政状況を踏まえて、これまでの取り組みの検証と事業再編、さらには職員の意識改革に努め、30年先も持続可能なまちづくりを進めてまいりたいと考えております。

2点目の1つ目につきましては、日ごろから職員との対話に努め、事業推進に当たり十分な意見交換を行うなど、私に対して職員が話しやすい雰囲気づくりに努めております。

2つ目につきましては、職員の能力を職務に発揮できるような育成を念頭に置いた指導を行っております。

3つ目につきましては、市民からの要望や提案に対して、職員が1部署の考え方で否定することではなくて、課を超えた連携により対応することを常々指導いたしております。

3点目につきましては、合併10年を経過し、さらなる職員の削減の中で重要課題に対応していかなければならないために、平成27年度、組織見直しに向けて検討を、今、行っておるところであります。

4点目の1つ目と2つ目につきましては、全ての事業について各課とのヒアリングを行い、事業内容や成果、必要性などを把握し、総務部長を含む企画財政課での査定を経て、理事者による査定を行い、予算を確定いたしております。

3つ目につきましては、実施計画や予算編成に当たっては、部長は各課の事業連携と調整、企画主幹は部長の指示により所管する部内の総合調整を行っております。

また、庁内会議などへの参画を通じて、全庁的な事業実施状況などの情報共有を図りながら、施策の方向性を部内に示し、実施計画や予算編成につなげております。

4つ目につきましては、私からの政策提案については私の指示のもとに主管課が計画立案を行い、庁内会議などで実施方法や事業費についての協議、調整を経て、事業実施に至っております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

私がいつも言わせてもらっていることですが、市の職員は総じて優秀である。もうちょっと正確に言えば、もともと優秀だということですね。そのもともと持つ優秀さを積極的な姿勢で仕事に立ち向かうことによって伸ばし、維持して、市の発展に寄与させていくためには、やはりトップである市長の強い、もっと言えば強烈なリーダーシップが必要であると。誤解をしてもらっては困りますが、強烈といってもやはり個性がある中で、その人の合った強烈さということですが、米田市長はその個性の中で、糸魚川市発展に向けた意志の強さを徹底的に職員に伝えていくことが重要だというふうに私は思うんですが、この点いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私もそのとおりと捉えておまして、なかなか全職員の個性に応じておれないところも感じておるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

人を動かすのは熱意であって、それを伝える機会がやっぱり大事ですよ。または市長ご自身のたゆまない精進によって備わったもの、これが人を動かす説得力を生んでいくんだというふうに思います。

何より中途半端に甘んじない意志の強さが必要だと思うんですが、徹底してよりよい組織づくり、人材づくりを目指していく思いが改革をなし遂げていく、今以上にいいものにしていくと。それを具体的に、どのような手段で職員に影響を与えていくかなんですが、今は先ほどの答弁の中にもありましたけど、それを現状で不足しているところを、多分、十分ではないと思います。それをどうやっていくかというところですね。この後の2年間に向けて、どういう取り組みをしていくかとい

うことなんですけど、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり事業に取り組む姿勢だと思っております。私がしっかりとその事業や活動に取り組む姿勢が、職員に対してもやる気を起こす1つの大きな要素になっていくんだろうと思っておりますし、また、私的には職員と対話を多く持っていきたいと思っております。仕事の中、また仕事外の中でも、そのような形をもっていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

この点は、また後でちょっと触れますが、提案のほうですが、職員提案制度というのはいいですよ。しかし、日常的に積極的な職員の姿勢を引き出して、日常的な小さな改善を繰り返すことによって、大きな改善につながっていくというような動きが一番大事なんじゃないかと思うんですが、職員提案制度の中には、もう実施済みのものも多く含まれていると。日常的にやっているから、それを提案の機会に、これからやることじゃなくて、既に実施したものも含めて発表して水平展開を図っていったら、工夫の上に、また工夫を重ねていくというふうな努力も必要だと思うんですが、これはどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさしくバージョンアップというのも大事だろうと思っております。やはり1つ踏み出せないものがあっても、いい1つの活動がスタートしたときに、よりそれに対して自分のまた考えがプラスされるというところも個人個人でもあったり、また、今言ったように職員間の中においても、そういうことも私は大きくあるものと捉えておるわけでありますので、そういったところも含めて、今、職員提案をもらいながら進めておる状況でもあります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

そこで職員提案制度というのは年に1回、ありますけど、それ以外の日常的な提案を、例えば庁内のグループウェアで常に発表しながら水平展開を図っていく。それがまた最近、取り組まれている毎朝の朝礼でも、同じような取り組みをしていくというようなことが、具体的に庁内の取り組み

としてなっていかなきゃいけないんじゃないかなと思うんですね、思いだけではなく。もう職員提案制度の次の段階に入るところへきてると思いますが、そういうことを1つ1つが職員のやる気を促していく、姿勢を変えていくと思うんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり職員提案という1つの事柄、正式な事柄ということになりましょうか、それ以外でも、やはり必要だと思っておりますので、我々が今まで進めてきておる中においては、職員間のコミュニケーションというのが非常に希薄なところもあったわけでありまして、その辺をもっともっと厚くしていきたいといういろんな思いの中で、今、取り組みをさせてもらっております。

そういう中で、先ほど私が仕事外と言ったのは、そういうところでございまして、例えば20市の職員のスポーツに行く中で、やはり違った課の皆様が集まって、スポーツへ取り組んでコミュニケーションをとっていく。また、これはその中では20市の交流会をやるわけですので、またそこで違ったアドバイスなり、意見を吸い取ってくるというようなこともありますので、いろんなバリエーションがある中で、そういったものの機会をより多くつくっていくことが、大事だと思っておりますし、また、つくっていかななくてはいけないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

私が今言ったのは庁内の取り組みが、より具体的に取組まれていかなければいけない。例えば日常的な改善もグループウェアの中で展開されていく、朝礼の中でもというようなことが、もうちょっと発展的なことも含めてやられていかなきゃいけないと思うんですよ。これはやっぱり担当課のほうで具体策を出していかなきゃいけないと思う。市長の概念に従って、市長の答弁でもいいですし、担当課の考えも聞きたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

担当課の提起もこの後あると思いますが、私といたしましては、やはりある程度の体制をつくっても、やはりその職員の感覚的に取り組む気持ちがなければ、生まれてこないものだろうと思う次第でありますので、やはり先ほども言いましたように、職員間のコミュニケーションをどのようにとっていくか、これがやはり一番大きな鍵ではなかろうかと思っております。それが私は職員の意識改革だろうと思っておりますので、なるべく今までにないようなコミュニケーションがとれるような活動をしていき、また、そういった方向をつくっていくことが、これからの事業の中、仕事

の中でも生きてくるんだらうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原総務課長。〔総務課長 田原秀夫君登壇〕

○総務課長（田原秀夫君）

お答えいたします。

職員の意識を変えていくと、意識改革を行っていくという1つのツールに、職員の提案制度、また、秋から取り組み始めました毎朝、就業前の朝礼というものでございます。これは快適な職場づくり、あるいは風通しのいい職場づくり、そういうものをつくりながら職務においての情報交換、また、応援体制、そういうものをつくりたいという、そういう職場づくりのためのいろいろなことを行っているものであります。

職員提案制度についても、その時期だけにかかわらずにふだん、1年間を通してそういうことができるようなきっかけづくりということで制度を実施しているものでございます。今年度につきましては、文面での提案だけではなくて、その中で選ばれたのについては、市長、理事者、部長の前でプレゼンを行うということの新しい手法も取り入れまして、全職員に徹底するように実施をしているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

朝礼が行われるようになって、先ほど市長が言われたコミュニケーションが向上したことは間違いないですね、完璧になったかどうかは別として。それをやはり意識改革にもつなげていくには、また朝礼をやっているだけではない取り組みが必要になってくるということだと思います。

職員がいろいろな案を出したものが、実際に検討の場へ上がって行って、しっかり前向きに、建設的に、この改善も加えてどこかで形になっていく。または、だめなのは明確に理由がはっきりされて、そして差し戻されてもう一度検討するとか、やっぱりそういう流れが大事になってくるのではないかなと思いますね。

今、職員からいろいろなものが上がってきたときに、または職員に仕事を指示した場合に、職員を信用して仕事を任せる部分と、それから実際には任せながらも細部にわたって理解して、チェックして、なおかつその上で、職員のやる気を損なわず、そして伸ばしていく対応をしなければなりません。

これについては、上司からの対応というのは、相当個人差があると思いますね。市長以下幹部職員、中間管理職の意識の共有ですね、自分たちが上司としてどういう対応をしていかなきゃいけないのかという、職員に対してどういう対応をしなければいけない、そこがしっかりと徹底されるような取り組みがされているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原総務課長。〔総務課長 田原秀夫君登壇〕

○総務課長（田原秀夫君）

お答えいたします。

職員の指導という面においては、日常の業務の中で職場内研修、OJTと言いますが、それを実践するということで、職員の経験年数のそれぞれ違いがありますので、その経験年数に応じた指導、育成をしているところであります。

また、職員のモチベーション、意欲という面では、それぞれの職務において目標を設定をして、その自分の目標を上司と面談で確認をすると、目標管理面談というものも職場のコミュニケーションの1つとして実施をしているものでございます。まだまだ全職員に行き渡っているかといいますと、そうでない部分も一部にもありますので、繰り返し呼びかけを行うと。そういう取り組みをすることによって、徹底をしてまいりたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

今の答弁は全職員に対してという話です。僕が言ってるのは管理職ですね。管理職は人を使う立場で、どういう部下への対応をしていかなきゃいけないとか、自分の一言がどういう影響を与えるのか。厳しい上司でも機嫌がよくなきゃだめですよ。機嫌がいい厳しい上司じゃなきゃ、機嫌の悪い厳しい上司はだめなんですね。物を言わなくなってしまうし、機嫌が悪ければ、当然、受けとめ方も悪い。さあ、そういうことをちゃんとここにいる人たちが、係長クラスを含めて、しっかりと意識として持つべく教育される機会があるかということを知っているんですよ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原総務課長。〔総務課長 田原秀夫君登壇〕

○総務課長（田原秀夫君）

お答えいたします。

そういう職場環境、あるいは部下を指導する立場の管理職ということにつきましては、市長、副市長から事あるごとに指示をいただいております。

市長の熱い気持ちが部課長のところへは伝っておるところでございますが、それをさらに係長、また中間の職員、また若手の職員につなげていくというのが部課長の役目だと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

考え方はいいんですよ。具体的でなきゃだめなんだ、具体的でなければ。例えば今、私が言った

ような機嫌がいい状態、自分に対して機嫌いいかどうか問いかけることが重要ですよ。それがどういう部下に影響を与えていくのかというようなことを、それは1つの例ですけど、そういうことをきちっとやらなければならない。常識だと思われることでも、それぞれの思いに軽重、軽い、重いがあるんですよ。その重さによって対応が変わるし、ついつい易きに流れるのが人間の常じゃないですか。だから機会を捉えて重要なことを確認していく段階が必要だと言うんですよ。だから部課長、幹部職員、中間管理職の人、組織を動かしていくリーダーとしての教育についてどうなっていくかですよ。考え方とかそういう話でなくともっと何て言うか、具体的に熱を伝えていきながら、人を改革していく段階があるかということですね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

先ほど総務課長も申し上げましたけれども、市長のほうからは部課長会議等を通じて、部下の指導という面では常々指示をいただいております。

先ほど伊藤議員のほうからも話がありましたように指導方法についてはそれぞれ個人差、部課長でもそれぞれ個人差、個性もありますので、それぞれの個性、自分に合った方法で指導していくということになるかと思えます。指導には、言葉で指導するというのもありますが、態度や行動というものもあります。それらを通じて部下に仕事の進みぐあい、あるいは市の進んでいく方向、それとそれぞれの役割の仕事、それらのかかわりと仕事のやり方の工夫、それらも引き出せるような指導を、今、申し上げたような言葉、態度、行動をもって指導していくということで取り組みをしているところでありますが、今後とも、そのように進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

私がいろいろな職員さんと個別に話をする中では、やはり十分だという感じはしないんですよ。今言われたように取り組んでることはわかります。やはり現状の中で現状を分析して、じゃあ今の状況をもうちょっといい状態にするには、どういう取り組みが必要かということは、やはり常に考えていかなきゃいけない。現状がだめだと言うつもりはないです。ただ、もっとよくするためにどうするのかというところを、やはり常に模索しているようであれば向上できない。次から次へと手を打たなきゃだめなんですよ。よくなったって、そこでやめたら必ずマンネリして、だめになっていく。そういうことを言っているんですが、今後、今の現状を続けていきたいと言いますけど、前進なしでいくんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

それぞれやっぱり自己研さんを積みながら指導方法を、どういう方法が指導に適しているのかというのは、部下職員も一人ずつ個性があるわけでありますので、それに応じた指導方法というものを、意識しながら改善していく必要があると思っております。手法については具体的にちょっと今、持ち合わせておりませんが、やっぱり改善をするという工夫を、意識を持って取り組んでいく必要があると思っておりますので、今後ともそのように進めてまいります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

今、私も1つ問題提起をしながら改善をしていくっていう話がありましたから、ぜひ今後、現状に甘んじない、もっともっと組織力を上げる努力をしていってほしいと思います。

公務員は、できない理由を挙げるのは非常に上手であるというふうに言われてますね。そういうくせのある職員というのは必ず今度、抵抗勢力になるわけですよ、やる気のある人の。そして何もしないだけでなく、足かせになっていくというような状況があります。民間でも、こういう人間はいますよ。しかし民間なら、もう相手にされなくなっていくですね。こういう人は、自分がそういうよくない状態であるということを認識していないか、もしくは状態はわかっているけど、それが悪いことであるということをおぼえていないんですね。最悪な場合は、法律、条例、制度に詳しいものとして、できない理由を挙げて、失敗を未然に防ぐことが自分の仕事だと思っている可能性もある、総じてそういう思考形態に陥りやすいですね。

ということを考えると、そういう状況がよくないということを認識して、自己コントロールしていくことが重要だということになりますね。そのようなことを学び、徹底する機会があるかどうか。自己検証しながら自分の状況を理解し、改善していくというようなことを、職員がやらなければいけない段階があるかどうかですね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

日常業務の中で、それぞれ自分のくせというものもどうしても出てまいります。そういう中においては、悪いくせについては自分でやっぱり気づきながら直していくということが必要です。そういう意味では、日常のOJTの中で周りの者、上司が言葉を発しながら、あるいは業務の中で話をしながら、そのようなことを気づくように取り組みをしていくということで、現状でもそのようなことをやっておりますが、そのような取り組みをやっぱりより深めて繰り返し、繰り返しやっていくことが、組織全体としては必要と思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

部長も行ってこられましたけど、牛久市では相当、自立した勤務評定をしていて、それが勤勉手当にも反映されるし、人事にも反映されていくということをやっていますね。そういう中で、自分がどう評価されるかで自分を知っていくという部分もあると思います。これはまた後で、ちょっと牛久市の例には触れますが。

また市長が直接、職員に話す機会を多くして、的確な人材教育や人格教育をしていくなど、やっぱり影響力のある人間が行っていくべきだと思うんですよ。話の内容が正しくても誰が言ってるかによって全然違います。それが職員の心に響かなければ、影響を与えることはできませんね。立場で物を言っても人は動きませんから、本気で考え、取り組むというか、このことに時間を割いていますか。やっぱり市長もなるべく職員と接したいと思うかもしれませんが、時間があんまりありませんよね。その中で、何かどこかで仕組みをつくっていかなくちゃいけない。毎日の朝礼で庁舎にいるときは、必ずどこかの課に顔を出して朝礼に参加するとか、具体的な取り組みが必要だと思います。そういう思いだけではなかなかできないと思うんですが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり形式で行っているとなかなか伝わらない部分は、今、議員ご指摘のとおりだと思っております。そういう中で、どういう手法があるのかというのは、やはりいろいろ今、工夫をさせていただいております。それが先ほど何度も言っているように時間外での接し方、そしてまた違った観点から職場というものを離れて、組織の中でのかかわり方みたいなものを工夫しながら、今、取り組まさせてもらっています。特に、この平成26年度は、いろんなバリエーションを出しながら進めさせてもらっているのも、その1つと私は捉えております。でありますから、そういう中で、いかにやはり私の気持ちをどう伝えていくのか、その仕事に対しての伝え方をどうしていくかというのは、今、ちょっと工夫をしているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

やっぱりそういう機会を工夫してふやしてもらいたいと思います。それによって職員に影響もいろいろ出てくると思います。

組織と配置ですが、私が知っている中にも新幹線開通を控えた、この糸魚川市にとって重要な時期の部署に疑問を感じる配置があります。これは具体的には言いませんけどね、確かに人事は非常に難しいですが、定期的に人を入れかえているだけの人事異動ではないか、その中での工夫にすぎない。特に糸魚川市のような年功序列の人事では、なおのこと難しさが増すと思います。

実際の人事異動はどのようにして決められるのか、その練り上げ、くみ上げにどのくらいの時間を割いているのか。それから、また課長クラスの意見はどのように生かされているか、お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田原総務課長。〔総務課長 田原秀夫君登壇〕

○総務課長（田原秀夫君）

お答えいたします。

人事異動のシステムでございますが、秋くらいから作業にかかりまして、まずは各課の所属長からのヒアリングを行います。また、この年末ぐらいから市長の指示をいただきまして、組織が先でございますが、組織の確定、それから幹部職の確定ということで、来年の3月が内示の時期でございますので、4カ月ぐらいをかけまして積み上げていくということでございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

今の話ですと、上から順に決まっていくわけですね。だけど実際に陣頭指揮に当たる課長の意見は重要だと思うんですが、その部署を自分が預かるについてどういう人材が必要か。課長人事が先に決まって、その内示があつて、その中で部下の選定に意見が反映されるというようなことが必要なんじゃないか。難しいかもしれませんよ。だけどそういうことがないと、より適正で効率的な事業執行はできないと思いますけど、工夫の余地ないですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

先ほど総務課長が申し上げましたけれども、その前に各個人から自己申告書というような形で職員個人の考え方、あるいは希望というものもお聞きいたしております。全体を通じては市長、副市長、あるいは教育長の意見を聞きながら、最終的に市長の判断で人事配置をしていくという取り組みであります。その途中では、先ほど申し上げましたような形で、当然、現場の責任を預かる課長の意見を十分反映できるような形で、最終的な市長の判断をいただいているということでもあります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

実際に4月から配置される課長の意見が、その部下の人事に反映されているということですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

同時に人事内示をしておりますので、今のような新しい配置の課長の意見ということではないということでもあります。この人事のやり方については、それぞれの組織の中での考えで行っていくものでありますので、伊藤議員のおっしゃるのも1つの方法というふうに承ります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

方法はいろいろある中で、どういう方法をとるか。その方法論も工夫していく必要があるだろうということ言ってるわけですから、今、私が言ったようなやり方だけではないと思いますね。

いつも例に出しますが、茨城県牛久市では完全に年功序列を廃止していますね。40歳そこそこの課長がいるそうですが、適正な人事配置に年功序列が大きく足かせになっていると思いますね。これは人事配置する側よりされる側の意識や受け取り方が、判断の足かせになるということもあると思います。

こう言えば、現在は年功序列制ではないと言うかもしれませんが、正確に言えば年功序列ではない部分もあるので、完全な年功序列ではないということであって、おおよそ年功序列である。年功序列を完全にやめるには多少の労力を必要としますが、持続可能な糸魚川市を思うのであれば完全に廃止して、職員の意識を改革し、能力主義による人事配置により発展的な行政経営ができるようにすべきではないかという考え方があります。実際に、やっているところもありますね。そのような考えをどう思いますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常に人事は悩む部分であります。非常に悩みます。やはり適材適所をどう考えるか、非常に難しいところであるわけでありまして。

そういう中で、私は一体感を持った事業活動、または行政の運営ということ考えたときに、やはり職員は100%、みんな能力を出してもらいたいというのを基本に考えて言っておるわけございまして、本当に真っ白なところからスタートというのは、そういうような状況が起きるようになれば、伊藤議員ご指摘のような部分もあるのかなと思うわけでありまして、確かに理想的な部分といえましょうか、1つの方法の中においては、そういうことを試みたい気持ちは、なきにしもあらずの部分であるわけでありまして、非常に難しい部分と捉えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

市長が牛久市へ行ってきたりして、自分の目で見なきゃやっぱりわからないかもしれない。これは難しいことですが、やっぱりそういうことだと思っんです。自分で見て話を聞いて、いいところ

悪いところも聞いた中で取り組むとしたらどうするのか。できるのか、できないのか。今、言われたように、試みたい気持ちもあるけど、難しいところもあるだろう。でも、やってるところがあるんですから、実際に。初めから牛久市だって年功序列がなかったわけじゃないんですが、取り組んでいるわけですよ。

企画のほうに入りますが、企画財政課は各部課で行われている事業や計画している事業について、熟知しているという状況が確保できているんでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（齊藤隆一君）

大変厳しいご指摘なのかなと思いますけれども、例えば平成26年度事業で申し上げますと、市の事業数が840を超える事業があるわけですが、基本は、まず全ての事業について担当課からの詳細な説明を受けるということでありますので、100%という部分は別にしても、それぞれの事業の内容については承知をしているということであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

細かい事業は別にして重要なものについては、やはり各課からの予算要求時に初めて事業内容を聞くようでは困りますよね、企画担当課としては。新規事業であっても企画という面でいえば、企画財政課が予算要求段階で説明を聞いて初めて知るという、これでは企画がつく課とは言えないと思う。そこへ持ってくる仕組みに、何か欠陥があるんじゃないかなというふうに私は思うわけですよ。今後、やっぱりどこかでそこを改善していかなくちゃいけない、どうでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（齊藤隆一君）

通常の経常的なものも事業として組んでおりますけれども、それは別としまして、例えばでありますけれども、新規の企画事業が発生する場合には、基本的には、すぐに予算要求ということにはなっておりません。

1つの方法を言えば、当然、方針伺いというものを上げるというルールになっておりますので、その方針を上げる段階で、当然、必要な関係課の会議を持って、場合によれば調整会議も持ったりしながら企画を事業化していくということになりますので、突然に予算要求ということは、通常はあり得ないということになります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

例えば継続の事業であっても、予算があまり大きくないと、300万円、500万円、1,000万円弱の事業である。そういうときに承知してないから、予算要求の段階で聞く。ああ、そうですか、わかりました、あとズバッと一律カットなんていうことはないんでしょうね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

通常の例で申し上げますと、そういった形での査定というのにはあり得ないというふうに思っております。個別の案件、ちょっと今、承知しておりませんが、今、通常の事業の取り扱いということでの答えにさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

企画財政課が年間を通して、どの程度、企画的な仕事にかかわっているかというところが重要なんです、ポイントとして、1つ1つの枝葉の問題ではなくて。予算を配分するだけだったら、財政課にすぎないということになります。最も重要な企画は、企画の仕事を年間を通じてどのように果たしていくのかということですね。当然、予算を配分するには事業内容を知らなきゃなりませんけど、でも、それは企画とは言えない。各課から上がってきた事業内容を聞いているだけでも企画とは言えない。じゃあ企画課としての仕事は、どこにあるのかということですね。今の現状、どうですか。ちょっと企画的要素が薄いんじゃないかと思うんですけど。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

企画調整機能ということでの質問かと思っております。

どう言いますか、特に昨今の事業実施に当たっては、なかなか1課単独での取り組みというのは非常に難しくなってきました。従来型のいわゆるお役所といいましょうか、役所の仕事という部分とは大きく内容が進化してきているんだろう。これはもちろん市民ニーズのこともあります、国の制度のこともあります。それらを考えますと、当課独自の部分というのも当然あるんですけども、それはそれとして、いわゆる2課以上、多課にわたる業務が非常にふえてきていることから、特に新規事業のスタートの段階では、それらの関係課の調整という部分の任務が非常に多くなっているというのが、最近の傾向だというふうに思っております。十分な調整機能を果たしているかどうかという点については、ご指摘の部分もあろうかと思っておりますけれども、我々の任務とすれば、その企画調整の任を果たすというところが、今、企画の部分だろうというふうに受けとめて、任に当たっているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

議長も首傾げていましたけど、それだったら調整課じゃないですか、企画課とは言えないですね。やっぱりずっと議会側からも、企画力のアップということを言っているわけですよ。だから企画課が企画力を発揮しないと、何の企画かということになるわけですし、そこに1つの問題があるということがわかったわけですが。

そして企画主幹という役職が新しく設置されました。これはついでに言うと牛久市でしたかね、企画課がないというところが視察に行ったところでありました。それはもう各課が企画をしてやっていくので、企画課というのはないということでしたけど、今回、企画主幹という役職が新しく設置されて、部長の補佐役ということで部内の全ての事業を理解して、企画財政課と中身の濃い協議をするべきということなんですが、これはやはり年間を通じて、その仕事をしていかなきゃいけないと思うんですよ。実際、動きとしてどうなっていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

先ほどの企画力というようなところでありますけども、本市の場合は各課において、まず事業の企画をするということで、それと全体的な企画の調整的なものも含めて、企画財政課が担っていくというような流れをしております。

事業の組み立てについては、総合計画に基づいて総合計画、実施計画を毎年度、3年ローリングで策定しておりますけれども、それらを策定していく中におきまして、平常の中で、それぞれの部長の補佐役という形で企画主幹が、部内あるいは部をまたがるような場合についても、市政運営会議等に企画主幹も出席をして情報を共有する中で、年間を通じてそういう調整、部内の調整はもちろん、また、部を渡った調整についても部長の指示で調整に当たっているというのが、今年度、取り組みをしているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

そういうことであればなおさら、企画主幹が今は兼務ですよ、企画主幹以外の仕事をしながら企画主幹をやっていく。年間通して今の事業を検証しながら、またそれを改善していく。また来年の事業に、どうつなげていくかという役割を果たすことができているんでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

企画主幹については今年度、平成26年度から取り組みをしたところであります。試行錯誤をし

ながら、取り組みをしてるというのが現状でございます。全体的な職員数の状況の中で兼務という状態で、今、実施をいたしておりますけれども、現状の取り組みも検証をしながら、今後の取り組みについても、また検討を加えていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

議会から企画力について言われるから、企画主幹を設けたというようなことでは、実際にその機能を発揮することは難しいですけど、実際にどういう組織をつくっても、どういう役職をつくっても、それがどういう動き方をしていくかというのは新しいことであり、今言われたように試行錯誤でいいと思うんですよ。その結果として、問題点があるとしたら改善して行ってほしいと思いますので、今、部長から発言ありましたから、ぜひともしっかり検証して当たって行ってもらいたいなというふうに思います。

日本一の子どもを育てるチーム糸魚川のところに入っていきますが、日本一の子どもを育てるとは、日本一の子どもの子育ての仕組みづくりやシステムづくりだということには変わりないですよ。だとしたら、どのような日本一の仕組みをつくるかの企画、立案というのは、誰が行うんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

常に、こども教育課長が中心になって動いておりますが、そこには各学校長等も関与してまいります。それから今、見直しの段階にも入ってきているわけですが、人選をし、どのような内容で全体を見直していくかというところまで、現在進んでいる最中です。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

糸魚川市が考える日本一の子育ての仕組みって、どんな仕組みなのかということが明確になっていなければいけない。これは変わってもいいんですよ。常に計画ですから改善していけばいいんですけど、そこが明確に具体的になっていかないと、漠然と教育に力を入れると言っていても、これは形づくっていくことは難しいですよ。この辺はどういう手段でいっているのかというのは、我々、一番近いところにいる議員にも、なかなか伝わってこないところがあるんですよ。それで聞いているんですけど。実際、こういう仕組みにしようというものって、どうなっているんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

糸魚川市の総合計画の中に施策の体系というのがあります。それは1章から6章まであるわけですが、教育委員会というのは1章、2章だけではなくて、6章全てにかかわっているなという強い思いがあります。その中で結局、各課の連携というのが、非常に重要になってきているというように捉えていますし、一番この一貫教育を推進していく中で、内部がそのようにきちんとまとまっていくということと、それから外部に対しては、やはり学校・地域・家庭が一体となって子供を育てていく、そのシステムが本当に機能しているかどうかということを確認することが、重要だと思っております。そのシステムがきちんと機能しているかどうかということを確認するのが、7月と2月に行われる教育懇談会であると我々は考えていますし、そこで市長にお願いをして、市長の思いを語っていただくことにしております。そういう思いがその全参加者に伝わっていくことによって、広く全体に伝わっていくのではないかなと、こういう思いを持ってやっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

ほかの部は企画主幹がいるんですけど、教育委員会はいませんよね。教育長に対してこども教育課長が、その立場になるってということなんですかね。その役割的なものが次長の立場でもありませんけど、考え方として企画主幹というものができたときに、きっちり整理されていなかったか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

きっちり整理されていたかという質問ですが、この子ども一貫教育方針に取り組んだときから、そしてこれがシステムであると確認した段階から、そのような動き方をしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

ということは、企画主幹というほかの部にできたときには、教育委員会としては、そこは確認されていないですね。企画主幹に相当するものは、次長ですよということが明確になっていない。そうなんだろうとは思いますが、やっぱりそういうことを1つ1つきちっとしていかないと、何で各部に企画主幹があつて教育委員会にないのっていう話になるじゃないですか。そこを聞いているんですよ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

次長そのものは、私たち教育委員会の中では事務方のトップの補助をしていく人間であると思っております。そしてこども教育課長は学校現場から入ってきているわけで、いろんな0歳から18歳までの職場経験、全体があるわけではありませんが、いろんな経験を積んできております。そういう立場を生かしていこうということで、どちらかという、こども教育課長のほうから主幹といいますか、全体計画を立ててもらおう立場になって動いてもらってるということです。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

伊藤議員のご質問は、3つの部に企画主幹を置いたんだけど、教育委員会にないのはどうなのかということも含めて、お聞きなっているんだろうと思いますけれども、教育委員会には教育長の補佐をするということで、教育次長も企画主幹を導入する前からあったということで、それ以外の3つの部署に企画主幹を平成26年度に置いたということであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

失念しとったわけですね、わかりました。

それで、子育ての仕組みが日本一だということは、具体的にどのような仕組みをいうのかということがはっきりしてないと。例えば日本一の子育てを判断する物差しを持っていないとはかれないんですね。何か物差し持ってますか、こういう基準に照らし合わせて今の状況を判断しているというものがあるかどうかですね、それがないと判断できませんよ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 渡辺寿敏君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（渡辺寿敏君）

お答えをいたします。

本来、子ども一貫教育ということで、日本一の子どもを育むということでやっているわけですが、そもそもこの根底は、子供の成長にかかわる人は、それぞれの立場、団体でそれぞれ力を発揮していただく。実際に学校、家庭、あるいは地域子供会や公民館活動、各種教育団体、それから医療とか健全育成の団体、これらの大人たちが総ぐるみで、つながりを持って子供を育てていきたいと思いますというのが大もとのものであります。それについては、このひとみかがやく日本一の子どもを育むためにということで、一貫教育の基本方針を定めているわけであります。

そしてこれをもとにして、今度は、じゃあそれぞれの立場で、どういうふうなことを目指しているかということで基本計画を立てたわけでありまして。この基本計画の中にはそれぞれの分野において、それぞれの時期において、こういう子供たちを目指しますというふうなものがあります。確かに尺度と言われると、きちっとした数値とか形の尺度ではありませんが、一応、目標の形ということで、このようなものをつくって私ども進めているわけでありまして。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

数値化されることだけが物差しではないんですね。例えばいろんな自治体を調べて、ここがすばらしいと、ここに負けないようにやろうと、そことの比較をしていくだけでもいいですよ。やはりそういう具体的でない、なかなか人に伝わっていかない。

今言われた表もよく読み込んでいけば、でも、それでなかなか判断できないですよ。目指すところはわかるけど、今どの状態なのかわからない。やはり保護者の意見も子供たちの状況、教育現場の意見も聞いた中で、総合的に判断していくしかないと思います。ただ、それに比較するものがあるかというところは重要だと思いますので、ぜひそういう観点も取り入れていってほしいと思います。

チーム糸魚川ですが、これは響きのいい言葉でもありますし、その思想もいいと思います、私も大賛成です。しかし、現在はまだ全く機能するところまではいっていない。

先日、市議会と、まちづくり団体連絡協議会との懇談会がありました。ちょうどその前の週には、行政改革特別委員会の市外調査で、茨城県坂東市の協働のまちづくりを視察してきたところです。実際にそうやってまちづくり活動している人たちの集りこそ、チーム糸魚川の重要な部分である。その横の連携がとれて、活動が円滑にリンクしていくようにするには、行政の手腕が必要になるということだと思いますね。

チーム糸魚川という発想を現実の地域活性化につなげていくために、現在の状況がどうであって、何が必要なのかを的確に把握して、適正な手段を最大の効果が上がるように講じていくことが必要である。組織の構想も含めてですよ、どのように考えていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

チーム糸魚川の設立から、ちょうど間もなく1年を迎えようとしています。この間、立ち上げの部分で、つまずきも含めていろいろあったところでもありますけども、先般も幹事会を開いております。次年度の計画ということも話が出ておりますけれども、やはり伊藤議員ご指摘のように何か共通のテーマを持って、現在、24団体ですけども、もちろん会員の拡大も含めて取り組むテーマというのを、これから決めていかなければならない。

例えばですけども、部内でお話が出ておりますのは、人口減少対策というのも大きな1つのテ

マとして取り組んでもいいのではないかというような話も出てるところであります。

そういった形で当市に置かれている、当市が抱える課題に、みんなで同じベクトルに向かってということになりますけれども、そういった取り組みがチーム糸魚川でやっていかなければならない、また1つのテーマではないかなというふうにも感じているところでもありますので、今後、また新年度の事業計画に向けて、幹事会で詰めていきたいなというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

何かやっぱりイメージが違うんですよ。チーム糸魚川って、実際に市民同士のつながりを強くして、一体感を持って横の連絡を密にして、別々に活動していた人たちも一緒に活動していける中で盛り上がりをつくって、市全体のまとまり、活性化を図っていくところが本来のところだと思うんですけど、ところが市内の重立った団体を集めて、その長が集まって話をしても、何も動いていきにくいところがある。それが悪いとは言いませんよ。それを補完するための手段というのがやっぱり必要であろう。

先日、まち団連との協議会するときにも、私のほうから逆にチーム糸魚川をどう思いますかって問いかけました。そしたらやはりあの人たちは、お一人の方ですけども意見を言ったのは、あの組織ではちょっと難しいだろうという話をしていました。もうちょっと具体的に、解きほぐした対応が必要だと思いますけど、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

チーム糸魚川の取り組みは、糸魚川市民全体でチームとして糸魚川市に元気をつけていこうというようなことでの取り組みでありますけれども、構成している団体の盛り上がりがいまいちではないかという部分については、ご指摘のような状況もあるというふうに思っております。

それぞれ団体の構成員全体にまで及ぶようになるのが理想的な姿でありますけれども、なかなかまだそこまでいかないというのが現時点での大きい1つの課題かなというふうに思っております。その中においては、先ほど企画財政課長が言いました人口減少対策というようなものも、1つの目標に向かってやればいいのかというのを、今、事務局レベルでは考えております。そんなことを、またチーム糸魚川の幹事会等で話をしながら、何か大きい取り組みに向かって、それぞれの構成団体が取り組みを共有して、行動していけるというような取り組みにもっていきたいというところは、大きな方向性であります。今後とも、いろいろと試行錯誤を重ねながら進めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

その取り組みはそれでいいとして、それでは足りないと思いますね。やはりトップダウンで市長が言って、各団体のトップがいてというところからいく分と、市長がトップダウンで一番下を動かして、下からぐっと上げていく部分というのがやっぱり必要。まち団連の人なんかは、やっぱりそういう動き方をしているわけです。そこだけとは言いませんよ。やはり下から沸き上げてくるような、そういう人たちが集う場があって、そこから熱が発されていくというような、何かそういう取り組みにもっていくために、どうするかというところに知恵を絞ってほしいです。

僕もここで答えは言えませんが、何かそこが足りないと思うんですね、チーム糸魚川には。やっぱりそういう具体性が必要だ。上からおろしていったけど、硬直している状態を、ぜひ知恵を絞って打破していただきたいと思います。

よろしくをお願いします。終わります。

○議長（樋口英一君）

以上で、伊藤議員の質問が終わりました。

ここで3時35分まで暫時休憩いたします。

〈午後3時20分 休憩〉

〈午後3時35分 開議〉

+

○議長（樋口英一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、田中立一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。〔7番 田中立一君登壇〕

○7番（田中立一君）

市民ネット21、田中立一でございます。

発言通告書に基づいて一般質問を行います。よろしくをお願いします。

1、文化振興と観光について。

人口減少、少子高齢化社会の流れの中で、伝統文化や新しい文化の創造により、地域の魅力を高め、住民が地域に愛着や誇りを持ち、地域の活性化を果たす役割は重要です。

また最近では、地域の文化活動や地域で開催される現代アートのイベントに観光客が多く訪れ、交流人口の増大を促し、文化は経済にも大きな波及効果をもたらしています。

北陸新幹線及びえちごトキめき鉄道の開業も見据えた、文化振興と観光による街づくりについて市の考えを伺います。

(1) 芸術祭について。

以前、建設産業常任委員会の市外調査で訪れた徳島県神山町は「アーティスト・イン・レジデンス」事業を展開していましたが、同様に決して交通の便がいいわけではない香川県の

直島は「アートな町」として知られ、国内外から多くの観光客が訪れています。また、金沢の21世紀美術館は展示品と共に建築を含めての観光スポットにもなっております。

県内でも、地域の資源に現代アートを取り入れた越後妻有アートトリエンナーレ「大地の芸術祭」が3年ごとに開催され、毎回多くの方でにぎわいます。来年は開催年にあたりますが、既に話題となっており、人気の高さを証明しています。

現代アートを中心としてアート市場は拡大し続けていると言われますが、糸魚川市内のジオサイト、ヒスイ、奴奈川姫、縄文文化等の地域資源を生かす、現代アートを結びつけた芸術祭開催はいかがでしょうか。

(2) 鉄道・駅舎の活用について。

えちごトキめき鉄道のイベント兼用車両のデザインは、長岡造形大学との産学協同プロジェクトで制作されました。

ある意味「走るアート」であり、更に駅舎や車内をアートで演出するイベントの考えについて伺います。

(3) 文化及び文化財の活用について。

① 史跡・文化財を活用した「まちあるき観光」の現在の取組状況について。

② 北海道・北東北の縄文遺跡群の世界遺産登録を目指す動きに市内でも期待を寄せる声がありますが、市ではどのように捉えていますでしょうか。

2 農業政策と半農半X（エックス）について。

(1) 本年度の作柄状況による次年度の生産・販売について。

① 本年度産米の価格動向と主食用米の生産調整補助金半額による市内農家所得への影響はいかがでしょうか。

② 2015年産生産数量目標発表は、当地域においても大幅減が予想されますが、対応について伺います。

③ 国・県が進める飼料用米の作付は、当市においては15aと伺いましたが、今後の取組状況と課題はいかがでしょうか。

(2) 農業をしながらやりがいのある仕事を両立するライフスタイル半農半Xの実践を志す若者を支援する自治体が見られます。

提唱者は京都の方ですが、島根県では市町村と連携し、田舎暮らしを望む人たちを支援し、I・Uターンの移住促進を推進しています。

糸魚川市においても取り組む考えはいかがでしょうか。

3 北陸新幹線とえちごトキめき鉄道の開業について。

(1) 北陸新幹線利用促進に向けた広域観光の取り組みについて。

① JRの試算によると北陸新幹線東京一金沢全体で1日2万3千人利用の見込みと発表されましたが市ではどう捉えているか伺います。

② 11月26日の新潟日報政経懇話会でJR東日本の常務は、今後広域観光の取り組みが進む中、どこのエリアが伸びるかで停車駅や列車タイプは変わってくると述べておられますけれども、現在の広域観光連携の取組状況はいかがでしょうか。

(2) 在来線の運賃について。

JRや他の鉄道事業者等との併算で発生する運賃の割高は、利用者の生活と利用促進に大きな影響を与えます。

運賃体系の分かりづらさが市民に更なる不安を与える一因ではないかと思われませんが、市の考えはいかがでしょうか。

(3) 並行在来線開業時のイベントの取り組みについていかがでしょうか。

以上、1回目の質問、お願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

田中議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、ジオパークに関連した芸術祭等のイベントを検討してまいりたいと考えております。

2点目につきましては、先ほどの保坂議員にもお答えいたしましたが、市でどのような取り組みができるか検討してまいりたいと考えております。

3点目の1つ目につきましては、相馬御風宅をまち歩きの出発点とする活用計画を検討してまいりたいと考えております。

2つ目につきましては、世界ジオパークの中で保存、活用していくべきと考えております。

2番目の1点目の1つ目につきましては、先ほどの吉川議員にもお答えしたとおり、稲作農家の収入に大きな影響を及ぼすものと懸念をいたしております。

2つ目につきましては、とも補償を基本に備蓄米や飼料米によって生産数量目標を達成し、全ての生産者が米の直接支払交付金を受けられるように検討していきたいと考えております。

3つ目につきましては、今年度、試験的に飼料用米を14アール取り組みましたが、収量が予想より少なかったことが今後の課題となりました。

2点目につきましては、就農や田舎暮らしを望む人たちへ住まいなどの必要な情報を積極的に発信するとともに、総合的な支援で移住、定住を推進してまいりたいと考えております。

3番目の1点目の1つ目につきましては、大きな魅力と捉えており、ジオパークを核とした広域観光を推進する中で、糸魚川駅へできるだけ多くの利用客を取り込んでいけるように努めてまいりたいと考えております。

2つ目につきましては、主な広域連携として北アルプス日本海広域観光連携会議、北陸新幹線停車駅都市観光推進会議などがあり、それぞれ広域の魅力を生かした誘客活動を進めております。

2点目につきましては、えちごトキめき鉄道では関連鉄道事業者との間で乗り継ぎ割引運賃などを設定しており、市も広報などを通じ、運賃設定と割引区間などを周知する予定といたしております。

3点目につきましては、開業日と翌日の2日間、糸魚川市内におきまして、能生、糸魚川、青海の3駅を中心に、つながりのある開業イベントを実施してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もございますので、よろしくお願ひ申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

最近、これまで歩いて見て楽しむまちづくり提案して、今回はその3になります。

交流、環境美化、健康をテーマに、オープンガーデンやスマートウエルネスシティーをこれまで提言してまいりましたけれども、今回は文化であります。

関連することから質問の順序を1番と3番をさせていただき、2番を最後にさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

芸術祭についてであります。

先ほどの答弁では、ジオサイトを中心に検討してまいりたいと。もう少し具体的に、どんなことを考えておられるか、現時点でどのようなものがあるか、お願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

佐々木文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 佐々木繁雄君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

田中議員からは昨年もAIRのご提案をいただきまして非常にいい、非常に活用すべき案かなというふうに思っておりました。

今現在、新年度の予算には、まだ今これから詰めに入っておりますけれども、来年度はこれまで続けてきたクラフト展、これも実行委員会形式でやっておられる、能生地域でやられておった事業でありますけれども、来年度は実行委員会のほうでは長者ヶ原遺跡の公園を使ってというご提案をいただいております。そういうものも含めて縄文サミット、縄文都市連絡協議会というのが来年度、糸魚川で開催されますので、この日程調整をうまくやれば、9月ごろに、これを1つの材料といたしまして、そういうイベントの中でクラフト、プラス芸術的なものを長者ヶ原遺跡公園の中で、できればなというふうな計画を今立てている最中でありまして。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

クラフト展を来年やることは聞いておりますし、期待をしております。芸術祭、それはそれとして、また、糸魚川市全体、あるいは糸魚川市を超えた全体の中での芸術祭の考えというものを私は頭の中に入れて、今回、質問しているんですけども、そういったことに対するものはいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

佐々木文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 佐々木繁雄君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（佐々木繁雄君）

クラフト展につきましては、全国からもう五、六十名以上の方々が集まられることでもありますので、こういう実行委員会の中でも少しこういうご提案の詰めをさせていただければというように思っておりますし、今現在まだ素案でありますので、市内外の、市内の中には十数名の芸術家もおられますので、そういう方々や、外の部分については、また今後、少し検討する必要があるなというように思っております。お話のように、外の芸術家も含めてA I Rのように募集をするということも一つの方法でありますので、検討を進めてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

初年度からいろいろと大きなことを言ってもあれかもしれませんし、こういったことを通じてだんだんと実績を積んでいって、交流人口の拡大にさらにつなげていけたらなと思って、今回やるわけなんですけど。

ちなみに、大地の芸術祭でありますけれども、来年行われます。ご存じかもしれませんが、2000年から大地の芸術祭は始まって、初年度は16万2,800人の来場者があったと聞いてますけども、回を重ねるごとに、2012年には48万8,848人の来場者があったと。そのうちの67.7%が、県外からということになります。非常に交流人口の拡大においては魅力的なものだなと。これにはやはり1つも2つも、あるいはいろんな工夫が必要になってくるわけでありまして、その1つが、やはり地域の皆さんとの協力が必要になってきます。来年のクラフト展において、地域の皆さんとの協力体制というものをどのように考えておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

佐々木文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 佐々木繁雄君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（佐々木繁雄君）

クラフト展の実行委員会の方々とは、まだ話は詰めておりませんが、やはり大地の芸術祭のように地域の方々の理解、支援がなければできないというふうには思っておりますし、クラフト展だけについても、やっぱり地域の方々の支援が必要だというように思っております。

特に、縄文の遺跡の公園を使うということになれば縄文サミットも、全国から16の都市の代表や関係者が集まってまいりますので、糸魚川市はやっぱりヒスイ文化の発祥の地でありますし、また、石オノなどの交流が盛んだったもとでありますので、やはり企業の方々、また、地域の方々と話を詰めていく必要があるのかなというふうに思っております。まだ素案の段階でありますので、今言われるような地域の皆さんとの話し合い、また、集落や商工連盟の方々、いろんな方々のご意見を頂戴して進める必要があるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

クラフト展のほうはわかりました。成功を期待しますし、また、そのようになってもらいたいと思います。

先ほど言いましたように私は芸術祭においては、またそれを拡大、発展させていくのも1つの手かもしれませんが、できれば現代アートというものを中心としたものを、今これから考えていかれないかなというところで、その辺の視点からの展開をどうかということをお願いするわけなんです。

どうも先ほどからちょっとクラフト展のほうで話があれなんですけども、現代アートを取り入れた芸術祭というものを、今、各地で行われておって、非常に大きな成果を上げていると。その辺の認識とか、あるいは情報というものをどのようにやっておられるかなと。私のほうでやってもらえたらおもしろいなと思うのが、先ほど挙げたような大地の芸術祭もそうですけれども、瀬戸内芸術祭とか、ことし大町でも水をテーマにした芸術祭とか、いろいろと各地でやっております。そういうもので地域の文化振興にも寄与していくような、そういったものがないかなということで伺っております。

特に最近、よく聞かれるのでインスタレーション作品、空間芸術とか言われるものですが、これにはメディアは、例えば映像とか彫刻とか絵画、さらにコンピューターや廃棄するもの、そういったもの何でもいい。また空間においては、公的なものや広場やビル、自然の中、そういった場所を問わない。冒頭、市長からの答弁では、ジオサイトという話がありましたけれども、ジオサイトで展開するのは、こういう芸術がまたおもしろいんじゃないかなということで話をさせてもらっているんですけども、その辺の感覚はいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

冒頭でのお答えは、ジオサイトということでジオパーク関連をしたということで、申しわけございません、そのように申し上げたつもりであるわけであります。

と申しますのは、確かに糸魚川市内におられる芸術家、また、糸魚川を出身とする芸術家というのは、結構、おられると思うわけですが、なかなか今そういう人たちのリストも挙げてございませんし、また、その辺、熱意のある人たちの意見が、なかなか見えてない部分がございます。そうなりますと誰が中心になってやるんだというのは、やっぱり素人が中心になっては、なかなか成功しにくいだろうと思うわけですが、我々が今進めておるジオパーク活動の中で、進めていくのがいいのかな。

特に、その中ではご承知のとおりヒスイ文化というのは、6000年の縄文時代から伝わってきたヒスイ加工、石の加工技術。そうなってくると、クラフトの皆様方ともつながるのかな。そして、そんなに多くはないかもしれませんが、市内にクラフトの皆さんがおられるわけですので、そういった人たちと連携をとっていけるという。やはり1つ何か核になる、また、そこで携わっとる人たちが市内におるといえるのは、一番心強いわけですので、そういった人たちと、今進めていこうということで、クラフト的なものについては芸術性の高いものでございますので、そういったまた違った切り口で進めていけるのか、拡大できるのかなとは思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

考えはよく理解できますし、また、そのようにいろいろと多様な面の中で、それを展開していかなければいけないし、やっていかなければいけない。そのためには、それなりの知識を持った人等が、そういったもののキーとなるものがいろいろあるかと思えます。

先ほどから話に出ている大地の芸術祭、あるいは瀬戸内国際芸術祭、ああいったものを手がけているのは、上越市出身の北川フラムさんであります。そういうふうはその道にはその道の、また精通した方がおられて、非常に大きな実績を上げてます。この糸魚川市においても官民一体となって、そのように盛り上がっていったらなど、文化芸術がさらに発展していったらと思う次第であります。またそれによって交流人口が増大していけば、非常にいいんじゃないかなと。実際、瀬戸内国際芸術祭では、日本政策投資銀行の発表では、102億円でしたかの経済波及効果があるというふうにも数字が出ています。そういうことで、今後、さらなる検討のほうをお願いしたいと思います。

先ほどから（3）の②に当たります縄文文化の話が出ていますので、先にちょっとそちらのほうを聞かせていただきますけれども、この世界遺産登録を目指す動きというのが、この10月11日付の日本経済新聞に掲載されていたのが、市内のいろんな方が目にとめて、非常に北海道、北東北のほうを中心に、この世界遺産登録に向けて現実に頑張っていると。やはり広域な活動の中に、ヒスイ文化というものをぜひ加えたら、もっとおもしろいし、また世界遺産の登録に拍車がかかるんじゃないかと、そういうことを期待している声があるわけですね。その辺のお考えというものは、いかがなもんかなというところですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

佐々木文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 佐々木繁雄君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

縄文文化の世界遺産登録につきましては、ご承知のように北海道、また東北の一部でありますけれども、そういうところが今、申請を上げている最中でありまして、以前には北陸も含めたヒスイ文化も、そのエリアに入れるべきであるという議論がなされたというふうには聞いておりますが、世界遺産登録についてはちょっとエリアを絞り込んで北海道、また青森、秋田の環状遺跡群を中心ということに決まったようであります。

2009年から、その申請に向けての活動はやっとるわけではありますが、現在、国の段階で世界遺産の暫定の一覧表には記載されておるといような状況です。ただ、この今一覧表には11の団体がもう入っておりますので、その中から年に1カ所ということになりますと、まだ少し年数がかかるのかなという状況であります。

ヒスイ文化については、先ほど市長の答弁にありますようにジオサイト、世界ジオパークの中での考え方で進めていくということで、進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

今、課長が言われるように暫定リストのほうにも登録されていると。順番がなかなかあるわけですが、世界遺産の学術的評価、文化、交流、そういった広範であることが、登録の1つの条件というふうに聞いているわけですが、そういう意味においては、そこにヒスイ文化圏が加わることは、追い風になっていく1つの要因ではないかなという面もあるわけでありまして、そういった面で、糸魚川市が働きかけをしていくという考えにはならないのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常に我々はこのヒスイ、またヒスイ文化については、糸魚川市にとって非常に特徴のある文化であるわけですので大事にしていきたいわけですが、当然、非常に知名度のある世界遺産的に取り上げてもらうのはいいことであるわけですが、しかし、それがもしなっただとしたら非常に保護・保全で強いものがございまして、活用という部分というのは、なかなか難しいところがございます。今でさえ、ジオパークでさえ難しい部分がある中で、我々は世界最古のヒスイ文化を、やはり我々はもうちょっと活用していくべきだという形で、今、させていただいておるわけでありまして。

同じユネスコの支援するプログラムじゃないわけで、向こうはもう完全に条約をしておる世界遺産であるわけでありまして、そのレベルは違うんですが、ジオパークにおいても来年、正式プログラムになりそうな今、機運であるわけでありまして。そうなりますと、同じユネスコのプログラムじゃないかという形では理解してもらえるかな。レベルが違う部分があるかもしれません。しかし、我々ジオパークは、世界でスタートしてまだ10年しかたっていないわけでありまして。日本は、まだ7年しかたっていないわけでありまして、その辺をやっばり育てていく1つの活動としては、我々の考え方はそれに織り込んでいけるという形が、やはりいいのではないかなと思っているので、できれば我々はジオパークの活動の中で、取り組んでいきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

世界遺産、あるいはジオパーク、どちらにしてもヒスイというものを、文化圏というものをもっと発信していく、これはやはりこの地域の大きな特色の1つだと思いますので、大事に、しかも情報発信もされ続けていくということをお願いしたいと思います。

次に、2番の鉄道、駅舎の活用ですが、これはもうさきの議員の人たちがいろいろと聞かれて、もう私、今回言おうとしたことがあれなんですけれども、1つ、駅舎の利用では、もう名立駅がマイステーション作戦というものを展開して、非常に環境美化等を含めコンサートなどを行って

います。こういう活動というのを各駅で、一斉に行われたら素晴らしいと思うんですけども、糸魚川市内の各駅においてのこういう取り組みというのは何かされているかどうか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

名立駅の取り組み、今後のえちごトキめき鉄道の駅舎利用の1つの試金石みたいな形ではありますが、今のところ糸魚川の各駅で、そのような取り組みはされておられません。

失礼しました。大野駅の中で大野小学校、花を植えたり、それから絵を飾って、お客様をもてなすとか地域のもてなしは、大野駅で活動しております。それから根知駅でも、花いっぱいというのを行っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

この取り組みがいろいろと各地域において愛着心とか、あるいは利用促進にもつながっていくのかなと思います。行政のほうでもその辺も、いろいろな面で支援をされているんでしょうけれども、さらなる支援のほうをしながら広げていかれるような活動というものを期待したいと思います。その辺の考えはいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

地域と一体となってそのような活動、そのような盛り上げ方をする中で、例えば行政としてのまた果たす役割も考えていってみたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

それから列車の活用ですけれども、今回、建設産業常任委員会の市外調査で訪れた紀伊田辺、そこでは紀の国トレイナート、列車アートプロジェクトというものがありました。JRも協力して沿線地域が非常に一体となって展開しておりました。こういうチラシがあって、私が行ったときにも駅にスタッフの人たちがおられて、駅に来られる観光客にいろいろとサービスをしておられました。藤田課長も一緒だったんですけども、非常にこういう取り組みというのはいいいんじゃないかなと。課長がこの辺について何かご感想があったらお願いしたいなと思うんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

本当に素晴らしい取り組みでないかなと思ってます。ただ、やはり地域住民といかに連携していくか、やはり地域住民もそういう形になっていかないと、芸術家だけがやってもいい形にはならないと思いますので、そういう意味では、やはり地域住民と芸術家がいかにコラボできるのか、そういったことが一番重要になるんでないかなと思ってます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

おっしゃるとおりで地域住民の盛り上がり、それをサポートしたり支援していくのが、さまざまな行政を含めての団体かなと思うわけであります。

話が前後して恐縮なんですけれども、広域観光連携が先ほど二、三紹介していただきましたけれども、やはり1つの自治体でこれらを展開もなかなか難しいところは、いろんな広域の連携の中で、つながっているところやなんかでの催し物というものがいいんじゃないかなと。そういう取り組みというものを、これから考えていくことはないんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今、北アルプス日本海広域観光連携会議につきましては、非常に今までにない考え方で動いております。今まではどちらかということ、連携をとるということはどういうことかということ、ポスターをつくる時に一緒につくったとか、パンフレットをつくる時に一緒にあわせてやったとかということがありますが、お互いにやっぱりその辺をルートとしてどういうもので結べるのか。また、もし1つの事業といいましょうか、そういうプレゼンをするときに、どういうものが出せるだろうかというようなものを事務的に集まって、整理をしながらパンフレットをつくったりしております。戦略的にお客さんに提示できるようなものにつくりかけておる部分があります。

そのように非常に今までにない1つの取り組みを行っていただいておりますので、私はそれが今、本当にお客さんに喜ばれるものかというのは、まだそこまでいってない部分もあるかと思うわけですが、今までにない動き方になってることを考えると、非常にこれはいいものになっていくんでないかなと思っております。これからもやはりそういったものに、力を入れていきたいと思っております。やはり広域で取り組まないにだめだと思っております。

ですから、例えば新幹線のラインの中で、みんなで手を組んでやれるものもあれば、同じジャンルのものだけで手を組んだり、また、違ったエリアの中の皆さんと情報発信していくとかと、いろんなやり方が進めていかなくはないかと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

日本海ひすいラインの管内だけでも筒石駅は地下の駅ですし、名立の駅は川の上の橋上駅、それから本当に海にすぐ近い市振の駅だとか、あるいは古い駅、また最新の新幹線、いろんな駅がありますし、日本海の景色もいい。また、JR西のほうの大糸線、そちらのほうはまた打って変わって雄大な景色が見られると、非常に素材はあろうかなと思います。そういうことで、ぜひこういう素材を生かした、先ほどの芸術祭と同じような感覚なんですけれども、こういうトレイナートのようなイベント、あるいは企画、そういうものをぜひ取り入れてやっていただきたいなと思います。

まち歩きでありますけれども、先ほどの話だと相馬御風の史跡を今度改修して、活用するということなんですけれども、まだほかにこの市内で、今後活用していけるような、あるいは念頭にあるような文化、あるいは文化財、そういったものはどんなものを考えておられますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

相馬御風のお宅というのは以前からあるわけでありまして。しかし、そこだけで見に行くというのは、なかなか多くはなかったわけでありまして。そういう中で、我々はずっと提供できるものがあるんでないかというものを拾い出しをしてもらって、それをまたその雰囲気づくりも皆さんでしてもらわなくてはいけない。ですから、地域の皆様方の協力がなくてはできない部分であります。

そういうことを考えたときに、我々の能生地域においては、また筒石の集落とか、また、旧能生町のまち並みだとか、非常に長屋風の物すごく特徴のあるものがあるわけでありまして。また青海の中も、そういうものがございます。そういうものを、やはり雰囲気づくりもつくってやらないと、ただ1つ2つあるから来いと言ってもお客さんは来ないんじゃないかなと。その辺をやはり住んでいる皆様方と、どのようにそれを進めていくかというのをやはりきっちりまとめて、そして行政もその中に加わって、お客さんに喜んでもらえる形にしてから、その情報発信をしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

私も今、この質問の後に、テーマは親不知のほうもそうですけれども、筒石のまち並みとかああいう、個人のところもありますけれども、そういうまち並みというものが非常にこれからは見直されていくべきですし、そういった地域住民やら地域資源というものの活用ということを念頭に置いてありました。その辺はあるということで安心したと言いましょうか、ぜひ期待しておりますので、それはよろしくお願ひしたいと思ひます。

先ほど、ちょっと戻って恐縮なんですけれども、駅舎の活用で新幹線の駅舎も出てくるわけなんですけれども、今現在、越後湯沢駅のほうではワンコインだったかと思うんですけれども、地酒の試飲ができるコーナーがあって、非常に人気があるというふうにも聞いてますけれども、今度、北陸新幹線が開業すると、そちらのほうを利用できなくなるわけであって、ぜひそういうお客さんもニーズがあるんじゃないかなと。駅の近く、あるいは駅の中のどこかの一角でもいいんですけれども、そういう地酒の試飲コーナーと言ったらいいんでしょうか、そういう一角というのはどうなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

まず、新幹線駅の1階については、営業行為が一応できないということですので、そういったのは難しいのかなと思ってます。そういう中で、やはり試飲ができるようなスペースというのは非常に魅力的だと思いますので、また関係者と協議する中で、できればそういったスペースというものを検討してみたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

あわせて糸魚川の文化としてバタバタ茶があります。そのバタバタ茶も、やはり非常におもしろいんじゃないかなと。そういうのを常時といたら難しいのかもしれませんが、提供できるコーナーというのはいかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

佐々木文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 佐々木繁雄君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

バタバタ茶も実演込みなのか、またペットボトルもございますので、いろんな手法で提供する方法はありますけれども、今、交流観光課長が申しあげましたように、そういう場所を提供することができれば、検討してまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

次、3番の北陸新幹線の利用促進に向けた広域観光ですけれども、2万3,000人の利用が非常に魅力的ということに映ったわけですけども、市では当初、この利用数はどのように見込んでいて、糸魚川駅は利用客は、どれぐらいというふうにご考えておられたんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

まず、JRが発表しました2万3,000人ですけれども、これはJRはそれぞれ乗降の資料を詳しく持っているので、その辺の数字だというふうに思っておりますが、JRの資料からは各駅の今、在来線の乗車状況というのは統計では出ておりますが、じゃあそれが今、東京でどれだけ、金沢でどれだけというのは、なかなかこれ今の状況では出してもらえないという中で、新幹線のインフラ整備、これは当然、新しい整備をしていく中で、いろんな事業を立ち上げる中では、当然、その補助要綱に達する水準の数字も必要となっております、それが平成13年の新幹線の計画、構想の中で、大阪開通のときには例えば新幹線利用が5,100人というような形で、それをもとに5,000人以上の補助事業の規模というのもございますので、そういう中で今当面、金沢開業です、そういう中では例えば新たな新幹線インパクトなりで、観光では1,000人ぐらいの要するに増を考えておりますし、今、駅の利用が約1,000人ぐらいですから、これが糸魚川駅だと2,000人ぐらいですけど、そこから新幹線に移行するものがいろいろありまして、今、新幹線だけを考えますと、これはあくまでもそういう基本交通需要とか鉄道利用原単位という、こういう数値の中の計算値であります、2,700人ぐらいの利用の中で計画を立てて進んできております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

結局、今予定している、あるいは目標なのかどうかわかりませんが、進めているのは2,700人の利用を見込んでやっているということでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

数値の目標といいますか、そういう数値のもとに、今、計画を立てて進んできた状況ということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

かなりの利用促進について、力を入れていかなければいけないと思うわけですが、例えば白馬、小谷、大町の人たちに北陸新幹線の開業でよく話を聞くと、期待しているのは関西からの利便性向上、誘客、それともう1点が富山空港、特に外国人というふうに出るわけですが、じゃあ東京のほうはどうなんだと言うと、彼らは東京のほうは、どちらかという長野駅かな

というふうな話も聞きます。その辺の真偽はともかくとしまして、話としてそういうふうに出るんですけども、やはりその辺の外国人への駅の乗りかえの対応だとか、あるいは関西、中京からの誘客だとか、その辺の対策というものはどうなっていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

北陸新幹線の開業をどう捉えるかということで、幾つかの要素があるというふうに考えております。特に、観光サイドとして3点挙げるとすれば、1つは、やはり開業効果によって利用者の増加というのが見込めるということ。

それから2つ目は、やはり誘客のターゲットとなる地域というのがふえると。特に、今まで電車では非常に来づらかった長野とか群馬、そういうところもターゲットになりますし、それから新幹線で来れる石川あたり、そういったところが非常に交通アクセスが飛躍的に増すんでないかなと思いますし、この新幹線の開通によって、やはり人の流れっていうのも本当に全く変わるんでないかなっていう気もしております。

それから3つ目としては、やはり首都圏から乗りかえなしで来れるようになると、時間的にも短縮されるという。ただ逆に、時間が短縮されることによって、日帰りも可能になってしまうということですので、そういう意味では、やはり広域観光の白馬、小谷、大町、それから上越、朝日、そういったところと連携する中でお客の送迎、そういったものも含めて、今後、連携することが非常に重要になると思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

それから関西圏並びに中京圏の人たちにとって、新潟県の観光地で最も認知があるのは佐渡だというふうに聞くわけですけども、直江津・小木航路の利用者に対する北陸本線上の糸魚川駅の利用、これをどのようにPRしていくかということですけども、その辺の考えはどうなってますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

加藤産業部長。〔産業部長 加藤政栄君登壇〕

○産業部長（加藤政栄君）

お答えいたします。

先ほど来、市長等がお話しておりますが、やはり広域観光というものが大事だと思っております。そういった中で、さまざまなルートというのは考えられると思っております。

例えば今、北アルプス日本海広域観光連携会議をやっているわけですけども、それで見ると大糸線の長野方面、あるいは富山、上越ですんでそういった方面ありますけれども、その先も当然ある

わけでございまして、そういったものもぜひ考えていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

そこで1つネックとなるかなというふうに懸念していることが、特急料金なんですけれども、特別委員会でも若干触れさせてもらったんですけれども、関西、中京方面から来る場合、特急料金、糸魚川・金沢間が上越妙高と同じ料金であるわけですけれども、やはりそうなってくると少し不利になってくるんじゃないかなと。一方では東京からの料金としては、上越妙高と糸魚川のほうは1,400円のまた逆に差があると。どちらか同じように差がある、あるいは同額ということだったらわかるんですけれども、運賃の算定の仕方によってということなんでしょうが、やはりこの算定は、非常に糸魚川にとっては不利になるんじゃないかなと思うわけですけれども、この辺の考え方、あるいは対応はどのようになってますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

発表された新幹線の運賃については、先ほどの特別委員会でも若干述べさせていただきましたが、東と西で乗り継ぐ、ある意味、初めての新幹線の中で、たまたま糸魚川・上越間が東と西の境という中で、若干、西のほうの費用分が東と比べて高いという。その中でも西の糸魚川・金沢間の間でも糸魚川と金沢の間の傾斜配分、これは新幹線というのは100キロ、200キロ、300キロとある程度大きい単位の中で、たまたまどっちから来ても200キロ台という、地形的に距離的に、たまたま糸魚川駅がそういう地域にあるということもございしますが、全体の配分の中では、そこはどうしても糸魚川駅としては、なかなかこれは少し納得がいかない点があるというのは、県を通じて話してあるところでございます。

それからもう1点、関西につきましては、確かに金沢駅からだけ考えるとそうなりますが、今、これもまだダイヤの発表、それから今後の運賃の発表はないんですけれども、西のほうでは、例えば大阪からの優位性といいますか、当然、大阪から来るときは、いましばらく特急で来て新幹線になるわけですから、その辺の企画の割引というふうなものも、ある程度、考慮してあるということはお聞きしておりますが、それが幾らかというのは、まだ私どもが言える状況ではございませんが、そういうのも考慮してあるということで、関西からは逆に、もう少し有利な面も出てくるんじゃないかという期待はしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

いろいろと働きかけはしておられるみたいなんですけれども、この数字、資料を見ただけでは、ちょっと糸魚川の分が悪いんじゃないかなという懸念が大変してます。ぜひその辺の対応のほう、積

極的な働きかけというものをお願いしたいなと思います。

広域観光連携がこれからの観光で重要ということで、先ほどからも話がよく出ておりますけれども、この連携の中で、例えば具体的なモデルコースとか、そういったことの話し合いというものは、されておられますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

ことし北アルプス日本海広域観光連携会議では、いわゆる観光事業者を招待してのモニターツアーをしております。その中で新しい旅の発表会ということで、こういったコースが考えられますよという形での発表をしております。ただ、実際のツアーを組む段階においては、やはりいわゆるターゲットとするお客様、そういったものとか出発地、経由地、そういうものを見る中で、それぞれのお客様に合ったコースづくり、そういったものが必要になってくると思いますし、本市においても春の旅行企画として上越市の観桜会とか、朝日町の美術館、そういったものをツアーの中に組んだ商品提案というのを、もう現在やっている状況であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

けさの新聞ですけれども、長野市の善光寺の御開帳と高田城の百万人観桜会のPRするポスターが共同制作、先ほど市長も話があって、従来はこういう形が多かったということを言われたわけなんですけれども、やはりでも効果があったということは、こういうのは必要なんじゃないかなという気がします。

北陸新幹線開業の来年、2015年は、NHKの大河ドラマ「真田丸」、上田市が舞台になりますし、同じくNHKの朝ドラは、今度、能登半島が舞台になります。テーマがスイーツのことらしいんですけれども、先ほどから話をします長野市は善光寺の御開帳、こういったことで北陸新幹線の沿線ではかなりいろんなイベントが、めじろ押しで大変なにぎわい。恐らく黙っててもたくさんの方が来るわけですけれども、これらの客をどのように糸魚川のほうへやるかと、持ち込むかということが課題かと思うんですけれども、その辺の検討というのはいかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

藤田交流観光課長。〔交流観光課長 藤田年明君登壇〕

○交流観光課長（藤田年明君）

お答えいたします。

長野県との連携という中では、ことし上越3市の観光連携の実行委員会と長野県が共同して、長野と上越圏域を含めた、こういったイラストマップというのを20万部ぐらいつくっております。このイラストマップの、これはちょっと普通の地図と違いましてイラスト風にできているので、非

常におもしろい地図で、その中心が善光寺なんですけども、やはり来年度の善光寺の御開帳に向けて、長野市では誘客700万人を目指しているということです。ただ、来るお客様が善光寺だけで終わるかという、やはりそういう中では今の広域連携会議を生かす中で、長野に来てもらって善光寺を見た後、白馬、小谷を回って糸魚川に来ていただくようなそういったツアー提案、そういったものはしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

今のようなマップはおもしろいなど。ただ、それがどれだけ目にとまって、どうやって活用されるかという実際的な話は、またどうなるのかなど。また、広域観光連携のホームページを見たりしても、まだ今おっしゃったような取り組みが、少なくとも私には見えなかったんですけれども、そういったもののアップやPRの仕方と情報発信というものは、またこれからも一工夫、二工夫、必要なんじゃないかなど。

実際、特別委員会で金沢市を訪れたときには、長野市と金沢市が、もうそれぞれのJR東西の窓口としての連携を深めていると。そういうふうにもいろいろと取り組みの仕方があるかと思えますけれども、時間がもうすぐ目の前に迫っております。ぜひ開業、あるいは開業後に向けての観光誘客というものを、おくれなようにお願いしたいなと思えます。

在来線の運賃について伺いますけれども、それにしても、やはりいろいろと検討していただいて、初乗りで生じる運賃の割高については、会社のほうでは検討していただいているんですけれども、それはまたそれでありがたい話なんですけども120%それでも割高になっていくと。富山のほうでは、この割高については基金を設けておるので、その基金を使って充てて負担をなるべく少なくするという話を聞きましたけれども、その辺はいかがなもんなんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

富山の基金の使い方というのは、何年後かのまた値上げに対しての使い方って、詳しく今承知しておりませんが、えちごトキメキ鉄道のほうはそういうことではなくて、5年間は管内は据え置いたんだと、いろんな工夫をして据え置くという形の中で発表しておりますので、確かに違う会社との乗り継ぎ割引というのは、当然、発生するわけですけど、その中では抑えたという形の中で、その点については評価してるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

私も評価しているというんですけれども、やはりそれでもまだ何十%かの割高がある。そういう影響を受けるのは自動車を運転できない高齢者だとか、高校生とか、あるいは通勤・通学、通院、

買い物、そういう交通手段に使っておられる交通弱者ということで影響が大きいわけなものですから、その辺を認識して、もしあれだったら県とか、そういったものへの働きかけとかできないものかということなんですけども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり高齢化社会において市民の足というのは、非常に重要なところにきておるわけでありまして。今の段階では残してくれというだけの意見で今やってきとるんですが、これから先になってくると、それだけではいけないだろうと思っております。本当に市民にとって何が必要なのか、どういことが必要なのか、そして必要なものに対して集中的にやっぱり体系を整えていかなくちゃいけないんだらうと思っております。

本当に今、いろんな面で、そういったひずみが出てきておるわけでありまして、全てのものの交通体制をそのまま支援していくということは、できないだろうと思っておりますので、それはやはり市民の皆様方や、議会の皆様方と、もう少しやっぱり詰めていかなくちゃいけない事柄だろうと捉えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

負担がこれ以上ふえない何らかの方策、対策というものを要望できればと思います。

並行在来線の開業時のイベントでありますけれども、各能生、糸魚川、青海で行われると。どんなものか、もうちょっと具体的にわかればお願いできますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

今、いろんなところで最終的な詰めをしております。その中では、能生、糸魚川、青海の駅では何かふるまいですか、カニ汁とかエビなり、そういうものを今お願いをしておりますし、そのほかに開業記念のスタンプラリー、それとか、えちごトキめき鉄道にはえちごトキめき鉄道2日間の限定フリー切符の発行とか、そういうものも応援しておりますし、また、その他の駅では、例えば地元幼稚園や保育園児の塗り絵等を展示して、開業を盛り上げていきたいというふうなことを、今、計画しておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

さっきの列車のほうとも関係してくるのかなと思うんですけども、開業と同時だと思うんですが、イベント列車も運行されると思います。開業時から開業以降の話になってしまうんですけども、3カ月を切ってダイヤがやってくると、市民の間からイベント列車をこういうふうに使いたい、あるいは申し込み等、出てくるんじゃないかなと思います。その辺の申し込みやら使い勝手については、どのように周知されていくのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子都市整備課長。〔都市整備課長 金子晴彦君登壇〕

○都市整備課長（金子晴彦君）

今、運行を予定しておりますイベント列車というのは、イベント兼用列車でございまして、これはあくまでも8両の中の2両を、イベントにも使える仕様で運行させようということで、まずは今のJRとの完全な引き継ぎ、安全で的確な運転といいますか、運行時間を守るような形で、その後、例えばそういうイベント列車を空き時間といいますか土・日なり、そういうもので計画するというごことばでございますので、先ほどもお答えしましたように、そのイベント列車の使い方というのは、まだ全然示されておきませんので、その辺は、まず確実にJRから運行を引き継いだ後の課題というふうにお考えしております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

リゾート列車は、開業して1年後ぐらいというふうにお聞いています。イベント列車のほうは、開業と同時に兼用で動く。もう動いているんなら、やはりどのように使いたい、あるいは使えるかということは、当然、出てくるんじゃないかなと思うわけでありまして。その辺の取り組みやどうだというものを、もうちょっとお知らせいかなきゃいけないし、また、活用を進めていくべきじゃないかなと思うんですけどもいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

加藤産業部長。〔産業部長 加藤政栄君登壇〕

○産業部長（加藤政栄君）

お答えいたします。

デザインについては、このほど長岡造形大学の学生さんのデザインを使った、すばらしいものが公表されました。ただ、まだ運行については、私どもも知りたいと思っているんですけども、まだ教えていただけない状況でございます。

ただ、議員がおっしゃるとおり、もう3カ月で開業するわけでございますので、そのイベント列車をどういうふうにお運行するのか、こちらのほうも早く確認をして、市民の皆様方にお教えしていきたいというふうにお思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

4月になればお花見だとか、5月になれば新緑で、夏、暑くなってくれば暑くなってきたで、いろんなことを考えてくるんじゃないかなと。やはりリゾート列車もそうですけれども、イベント列車も兼用とはいえ、このえちごトキめき鉄道の目玉の1つじゃないかなと思っておるわけでありませう。それが今の段階で、まだいつごろからかもわからないわけですよ。というのは、ちょっと遅いんじゃないかなという印象がやはりします。できるだけ早く使い勝手等を含めて、明確になるようお願いしたいと思います。

2番の農業政策をさせてもらいます。

米価の動向と農家所得への影響ですけども、一般に大規模農家ほど影響が大きいと言われるんですけど、当地においてはいかがなもんなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

具体的に大規模農家での影響はまだ分析はしておりませんが、JAの出荷米が昨年ですと5万5,000俵、仮にこれがことしも同じ数量であったとしたならば、仮渡金が1,700円落ちていきますので単純に掛けますと9,400万円ぐらい落ち込むと。それに農家独自に販売してありますが、その倍ぐらいあるとしますと、約1億8,000万円ぐらいの米の販売収入の減額になるというふうに見込んでおります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

そういった収入減が、そのまま当地域においても大きな収入減になるというふうな影響があってくるんでないかなと思うんですけども、国等では農地の大規模化を進める一方で、大規模ほどまた影響を受けるということは、ちょっと矛盾が生じてくるんじゃないかなというふうに思いますが、その辺の感覚というか、認識はいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

今回の農政改革は、農地を集積をして作業効率を下げようという産業の政策と、それから中山間地域が抱える多面的機能を維持、発揮しようという地域政策との両輪だというふうに思っております。

当地域におきましては、地域政策としての農政を国のほうが考える支援制度をフルに活用した取り組みができるように、また、先ほど吉川議員の質問にもお答えしましたが、やはり地域の皆さんがしっかりと話し合いをして、今までの戸別所得補償制度のように個人に現金が交付されてい

たものが、今度は地域のほうに交付されるわけでありますので、それらを地域の皆さんがしっかりと話し合いの中でフル活用していくというふうな環境を、私ども説明会をきめ細かく持ちながら取り組んでいるという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

飼料用米ですけれども、当地だからうまくいかなかったのか、それとも、たまたま今年度の試験的な栽培方法がまずかったのか、少なかったというふうにあるんですけど、その原因、今後の対策というのはどうなりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

今回、実証圃といたしまして約14アール、多収性品種、新潟次郎という品種でございますけれども、それに取り組んでみました。目標を10アール当たり620キロを目標で考えていたわけでありまして、実際には10アール当たり570キロの減収であったということでありまして、当地域に合った栽培の管理方法をしっかりと確立せんきゃならんというふうに考えておりまして、今年度の実験について反省をして、来年度の飼料用米の栽培を検討していきたいというところでありまして。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

当地では、もともと飼料用米というのは少なかったんでしょうか。県では6倍の3万トンに引き上げると、来年の計画ですけれども、県のほうでも、さらに飼料用米の生産支援に力を入れていくというふうに報道がありました。当市としては来年以降、さらにじゃあ拡大していくということによってよろしいんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

平成27年産米の生産調整が発表になりました。全国では751万トンで、前年比14万トンの減、新潟県におきましては52万1,290トンで、1万4,350トンの2.7%減になっております。当市への配分につきましては、今月の下旬にならないと決定いたしませんので、その配分を受けて、またJAの関係機関とも対応について考えていきたいと思っておりますけれども、備蓄用米、飼料用米を中心に、生産調整していく方向で考えていきたいと思っておりますけれども、JA、全農の割り当て枠にも限界がありますので、関係機関とまた詰めていきたいというふうに考えておりま

す。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

飼料用のほかに備蓄米等のお話がありました。備蓄米の関係もそうですし、以前、よく米粉の話があったんですけども、米粉の需要、供給というのは、今どんな状況になっているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

米粉の需要につきましては、さほど伸びていないという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

半農半Xについてですけれども、先ほどの市長の答弁で、かなり積極的な支援の話が出ました。吉川議員のときだったかと思うんですけれども、多面的機能としての農業という面で、この半農半Xの取り組みというのは、農業という面では、かなり積極的にやってもいいんじゃないかなと思うんですけれども、移住促進としての面からも先ほどの市長答弁のように、いろんな支援、事業的なものがあるわけなんですけど、もうちょっと具体的にどんな形の支援とか取り組みを考えておられますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

今年度に入りまして首都圏におきまして、移住、就農相談会を延べ5回取り組んでまいりました。これは市が単独でやりますもの、また、県が開催したもの等に参加してきましたわけでありまして、それで糸魚川市のブースにおいていただいた方が23人いるという状況でございます。

また、新聞報道等でもご存じかと思っておりますけども、首都圏の20代から60代の皆さんで田舎へ移住したいという希望の方が、約2,000人もいるということでございますので、そういう方々を当市のほうに招きたいということで、相談会にも対応しとるわけでございます。

新年度に向けまして農業ばかりでなくて、先ほどお話も出ましたクラフト関係者等の移住も含めて関係課と協議をしながら、支援策を考えていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

半農半X、兼業就農というふうに日本語でといいたいでしょうか、よく言われるわけですが、かなりニーズがあるというふうに聞いております。移住や定住促進と同時に就農者をふやして、それがまた耕作放棄地対策にもつながると。

浜田市、私ら政務調査で訪れましたけれども、毎年、30世帯の受け入れをしております。農業は水稲が中心ですけれども、柿とか梨とかの栽培もしているというそうです。農業や環境に関心を持っている方が多いということでもあります。ぜひ半農半X、前向きに考えてもらうことをお願いして、私の一般質問を終わります。

ありがとうございました。

○議長（樋口英一君）

以上で、田中議員の質問が終わりました。

本日はこれにてとどめ延会といたします。

大変ご苦労さまでした。

〈午後4時43分 延会〉

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員